

『福生市』

平成29年2月13日（月）

10時00分～10時20分

○都知事 座ったままで恐縮でございます。早朝から、都庁まで足をお運びいただきまして、ご苦労さまでございます。また、日ごろより都政の運営に関しまして非常にご協力いただいております。改めて御礼申し上げます。

多摩の振興策ということで、それぞれお伺いをさせていただいておりますが、今日も、都政の見える化ということで、このやりとりにつきましてもネットで公開をさせていただいておりますので、ご承知おきいただきたいと存じます。

それから、多摩も本当に時代とともに課題も変わっているかと存じますけれども、ぜひ福生市におかれまして、これまでの伝統と歴史を守りつつ、新しい方向を目指していかれるように、お手伝いできればと思っております。

歴史ある酒造がございますよね。それからアニメーションで発信もなさっているということで、まさに古きと新しきと両方合わせて進めておられることに関しまして敬意を表したいと思います。

それでは、市の実情などをお伺いしつつ、ご要望等をお聞かせいただければと存じます。よろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、加藤市長、ご発言をお願いいたします。

○福生市長 改めまして、おはようございます。福生市長の加藤でございます。本日は小池知事にこういうふうなお時間をとっていただき、私どもの要望、それから、お話を聴いていただくことを、心から感謝を申し上げる次第でございます。

それでは、現状について少しお話をさせていただきますけれども、小池知事も何回か足をお運びいただいて、私どものまちを見ていただいていると思うんですけども、よく言われるんですけども、福生市は基地のまちだというふうに。

昨年も天皇皇后両陛下が初めて福生市までおいでいただいて、行幸啓をしていただいたんですけども、両陛下も基地のまちだというふうなことをおっしゃっていたんですけども、実は青梅線を境にして、横田基地のほうの「洋のまち」と、それから今、知事がおっしゃったように酒造が2つありまして、その間に90ほどの蔵が点在している「和のまち」、両面を持っているまちでございます。

やはり基地のまちでございますので、70年以上、当時は旧陸軍の多摩飛行場から始まって、今は米軍横田基地、あるいは自衛隊も入っているんですけども、市域の3分の1をこの横田基地に提供しているまちでございます。ですから、10平方キロメートルちょっとなんですけども、そのうちの3分の1を提供しているので、東京都の中では実質の面積は狛江市に次いで小さいところでございます。そこにピーク時で6万2,500人住んでいますけれども、西多摩地域の玄関口であるということと同時に、商業のまちでございましたけれども、西多摩地域全域で、今、人口減少が始まっております。

私どものまちは、平成14年の6万2,500人のピークに、今は5万9,000人弱、5万8,500人ということで、4,000人ほど減っておりますけども、おかげさまで子育ての施策に力を入れていまして、日経新聞社の評価の中では全国総合2位ということで、何年かかけて計画的に待機児童を、保育園もそれから学童保育も今はゼロになっております。ですから、なかなか選んでいただけるようなまちになってきたのではないかなと思っております。

しかしながら、この3分の1を提供している部分で言いますと、今年後半ですか、横田基地に関して、CV-22オスプレイというのがまず3機配備予定でございます。これは国の専管事項でございますので、東京都のほうでお願いしてもなかなか難しい部分がございますけども、やはり要望等は要望としてお願いしていかなければならないと思うんですけども、つい最近、沖縄のほうでも事故がございましたように、なかなか、ああいうところだと海に不時着すればいいという部分がございますけども、やはり人口密集地域でございますので、市民の不安を取り除くのも私どもの仕事の一つだというふうに思っていますので、できれば情報公開のほうも東京都もご一緒をお願いしたいというふうに思っていますし、ぜひ知事には横田基地を見ていただければありがたいなというふうに思っています。司令官と話をしているんですけども、ぜひ知事に来ていただければというふうに話をさせていただいております。

そして、基地を抱える自治体でございますので、その部分もございますけども、先ほど話したように、基地機能の拡大化によって広がってきて、基地のまちという印象はつくられていますけども、私ども、55カ国以上の国の方がお住まいになっている地域でございます。ですから、5万9,000人弱で約5%、3,500人ぐらいの方が外国人として居住していただいているものですから、多分、将来のこの国の縮図という部分もございまして、私どもはやっぱりグラウンドデザイン、サイン計画等を、あるいはごみを捨てる

部分でも、その周知に関して、いろんな国の言語を使ってやっていますので、そういう部分も結構費用もかさんでくるところでございます。多分14ランゲージぐらいが入っていると思うんです。そのうちの6カ国語だけは私どもはホームページあるいは広報等で使用させていただいていますし、なかなかそのごみの分別等も、国の文化の違いがございまして、周知していくのは一つ一つやっぱり丁寧に。

○都知事 どの国が多いんですか。

○福生市長 一番はベトナムです。2番目が中国、3番目がネパール、4番目がフィリピンです。意外と、米軍基地があるものですから、アメリカとかが多いと言われるんですけども、そうではなくて、やはりアジア系が多いですね。ただ、皆さん方それぞれ飲食とかという部分をやっていますし、あるいは雑貨店も広がっているものですから、これから福生駅を今、西口、東口、再開発をしていこうと思って。

下が基地のすぐそばのルート16というので、洋のまちなんですけれども、これはアルファベットが氾濫しているようなところで。

○都知事 すごいですね。

○福生市長 はい。上のほうはその逆側の、青梅線から見ると逆側のほうで、非常に昔の里の文化というんですか、ここに来たら懐かしいなというふうに思われるような和の町並みを形成しています。しかしながらそのところもやっぱり全部再開発していかなければならないので、ぜひこういう部分も東京都にご協力をいただければというふうに思っています。西口、東口とも一緒になってやって、しかも、例えば、この約1キロ弱あるんですけども、福生駅からこの基地まで、そこのところは55カ国のブースというんでしょうか、国際通りみたいな形で作り上げていけば、多分、皆さん方来ていただけると思うし、また逆側のほうはしっかりと、そのお酒も今一生懸命プロモーションビデオもつくって、アニメーションでこういうところのPR活動をさせていただいています。ぜひこういうところもご覧になっていただければと思いますし、そういう意味で言えば、観光にも力を入れていきたいというふうに思っております。

先ほどもちょっと子育てに関してお話をさせていただきましたけれども、本当に知事の施策に関して、高騰加算の部分はすばらしい施策だと思っているんですけども、こう、段階的に一生懸命こういうふうに子育ての部分でクリアしてきていると、高騰加算は結構私どもにとってみると負担にもなっているところもございまして、保育あるいは学童の待機児童をゼロという形に関してはもう少しちょっといろんな形で見いただければという

ふうな思いをしております。

ぜひ、総合交付金の12億円を今お願いしていますが、そういう部分でも財政支援をしていただきながら、何とか私どもは、子供、孫の代まで、この自治体をバトンタッチしていけたらというふうな思いでございます。市役所の職員あるいは市民、一丸となって今、チーム福生として頑張っておりますので、ぜひよろしく申し上げます。ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございました。

それでは、知事からご発言をお願いいたします。

○都知事 はい。55カ国の方々がおられて、まさしくもうダイバーシティ、先へ行っていらっしゃるというので、大変びっくりいたしました。確かに、ごみの出し方など、それによって、もとの市民の方が反感を抱かれたりとか、小さなことがだんだん積もるとするのは、まちを保てなくなる一番基本的な部分だと思いますので、ぜひ周知のほうで、多分これは東京でも日本でもあちこちで起こっている話だと思いますので、何かうまくその周知の件なども連携できればと思います。

それから、待機児童の解消ということで、待機児童ゼロ、学童保育の件もゼロと、学童クラブのほうでもゼロということで、大変な実績を残しておられることに対して敬意を表したいと思います。補助金で待機児童の解消区市町村の支援事業補助金でありますけれども、これは市の意見を踏まえて対応したものでありまして、今後も意見交換させていただきたい。29年度の予算額についてはプラス前年度比60億円で、150億円とさせていただいておりますので、効果的にご活用いただければと思います。

それから、総合交付金関係でありますけれども、先ほどもお話がありましたけれども、福生市の場合、本当に色々ご努力いただいているわけですが、今後も、地域の実情を踏まえながらしっかり支援をさせていただきたいと、このように考えております。

それから、横田基地でありますけれども、現地視察については、状況を踏まえまして判断させていただこうと、このように考えております。

それから、改めて総合交付金の関係でありますけれども、地域の発展を支えておられるさまざまな自主的、自律的な取り組みとして都が適切に財政支援をするということでありまして、この車の両輪として機能するということが大変重要でございます。今後ともこの効果的な支援、お互いに両輪がうまくスムーズに走るような、そんなことを努めていきたいと、こう考えております。

そのほか別途ご要望もございますので、局長のほうから。

○総務局長 かねてから伺っております地域会館であります、扶桑会館の移転費用に係る財政負担の問題でございます。現行では現地建て替えを伴わない解体撤去費というのは対象外にはなっておりますけれども、伺ったお話や交付金の趣旨も踏まえまして、今後検討してまいりたいと思っております。

○行政部長 まだ少し時間がございますが、他につけ加えられることとかがあればお願いしたいのですが。

○福生市長 知事が今おっしゃっていただいて、視察に関しては検討していただくというふうなお話をいただきましたけれども、知事は防衛大臣もしていただいていて、なかなか話しづらい部分もあるかと思っておりますけれども、これから2020年、オリパラが待っていますので、空域の部分を含めて、やっぱり横田というのはこれからいろんな形でひっかかってくる部分があると思うんですけども、差し支えない程度でぜひ、何かお話をいただければと思っています。

○都知事 まあ、差し支えない程度ということでもないんですが、今回、安倍総理が新しいアメリカ大統領と連携し、そして、昨日は、ちょうど北朝鮮の飛翔体の発射ということも重なりまして、かえって日米同盟がこれでまた強固な連携が確認できるということになったかと思えます。

情勢についてはご承知のとおり、この東アジアも今激動している中において、まず日米同盟の関係が確認されたということはとても大きなことだと思います。一方でそれを実際に確保していくために、色々福生のほうでもご協力いただいているわけでありましてけれども、やはり今もお話がありましたように、これからの2020年大会に備えても、こういったことについては、いろんな面で日米関係の強さというのが必要になってくるかと思えます。サイバーテロ等も含めてでありますけれども。そういう意味で、皆様方、市民からすれば、色々ご不安な点もあろうかと思えますけれども、大きな不安を市民の皆様方に受けとめていただいているということに対して、感謝いたしたいと思えます。

オスプレイについては、先日の問題もございましたけれども、市長からも、ぜひ情報をきちっと伝えてほしいというご要望だったかと思えます。これについては防衛省、そして関係のところにご要望について改めてお伝えするようにしたいと思っております。

○行政部長 せっかくの機会で、インターネットでも中継されております。何かPRとかアピールとか、もしおありでしたら。

○福生市長 先ほども話をさせていただきましたけども、両陛下も、ああ、こういう町並みが福生にもあったんだねということを書いていただいた部分、まだPR、発信の不足だったのかなと思って、今、福生の良さを、まず、お酒の部分でも、プロモーションビデオで映させていただいて、そのほかにも私どもの市の良さという部分で、大変恐縮ですけども、私もラップに合わせて踊らせていただくプロモーションビデオに出ておりますので、ぜひごらんいただければと思っております。すみません。失礼いたしました。

○行政部長 どうもありがとうございました。

そろそろお時間でございます。最後に知事から一言お願いいたします。

○都知事 この、何というんでしょうかね、静と動と、それから伝統と、それから革新と、まざり合ったところが福生の魅力になるように、ぜひとも協力し合いながらやりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○福生市長 今日はどうもありがとうございました。

○行政部長 これをもちまして終了とさせていただきます。ご多忙のところ、どうもありがとうございました。

(了)

『立川市』

平成29年2月13日（月）

10時20分～10時40分

○都知事 座ったままで失礼いたします。早朝からありがとうございます。

それぞれ都と市の対話ということで、今回、予算案も出させていただきました。それぞれ多摩の振興策に活かすためにも、直接ご要望等を改めて伺おうという、そういう趣旨でございます。

見える化を徹底して進めておりますので、この様子につきましても情報公開、ネットで中継させていただいておりますので、ご覧いただきたいと。逆にそれを活用していただいてもよろしいかと思えます。

多摩も時代とともに人口急増から、今度は人口が減っていくという、これは日本全体でありますけど、そういう中で色々な魅力を発揮されて、ご努力いただいていることについては存じ上げております。特に、中小企業や大学の研究機関が集積しておりますし、豊かな緑を抱えていらっしゃるし、いろんな観光資源にも恵まれておられるかと思えますが、そこを車の両輪として連携させていただきながら、立川駅の周辺を中心とした商業、業務、これのまさに活性化であったり、それから文化、研究、防災など、広域的な都市機能の整備、これらについて直接ご要望を伺わせていただいて、そして、その意味で東京の持続的な成長につなげていくという、そのようなことを目標とさせていただきたいと思えます。

今日、市長のほうからご要望を伺わせていただきまして、都としてできること、そして、これからの課題など整理をしていきたいと思っておりますので、どうぞ時間をたっぷりお使いいただければと思います。よろしく、どうぞ。

○行政部長 それでは、清水市長、ご発言をお願いいたします。

○立川市長 おはようございます。改めて、このような機会をつくっていただきまして、大変どうもありがとうございます。

13年前に、知事が環境大臣のときにクールビズを提唱していただきました。あのときの応募の入選者は立川市民でございます。タガタという名字の方なんです、男性で。

○都知事 電車の中から新鮮です、ですね。

○立川市長 はい。もう今や本当にこのクールビズが定着して、世の特に男性はネクタイ

なしで1年中仕事ができると。夏だけじゃありません。最近、冬でもノーネクタイというふうな形が大分認められてきたようでございまして、大変ありがたがっているのかなというふうに思っております。

まず、事前に私どもからお願いを申し上げました件につきまして3つ、4つほどあるんですけども、立川といたしましては、立川ということだけでなく多摩全体の課題を俯瞰しながら、この質問について出したつもりでございまして。もう知事もご承知と思うんですけども、多摩地区というのは中央線が長いこと東西を、地表を走っております、数年前によろやく高架ができたんですね。それまでは南北の交通が非常に不便。常に立川なんかは今でも慢性的な渋滞をしているんですけども、この都市計画道路の3・1・34号線、ここで行きますと赤の①ですね。ブルーの④というのは都が取得しました旧政府倉庫でございまして、この3・1・34号線という下に中央高速へのアクセスというのが書いてございまして。この都市計画道路がもう全く進まない。こういうことなんです。

課題は何かといいますと、この下のほうに、ちょうど真ん中あたり、JRの立川駅のすぐ西側になるんですけども、青梅線の部分と、それから、もう1本その南側に弧線を書いてありますが、これは昔の五日市線の跡なんです。これが、この線路と線路の間が250メートルから300メートルしかないものですから、高架で渡ろうか、あるいは地下にしようかという、さまざまな議論がございまして、全く進んでいないということでございます。しかも③とか、それから④のあたりは、いわゆる国の広域防災基地でもございまして、それから④のほうは、つい最近都のほうで取得していただいた広域防災基地の備蓄倉庫、このような役割を担っている施設でございまして。

この道路が少なくとも中央高速まで続いていかないと、いわゆる防災基地の機能が、半減どころか3分の1、4分の1、まあ、災害の発災直後は必要ありませんけれども、2日目ぐらいから、もう当然、備蓄品の、トラック輸送せざるを得なくなってくるので、ほとんど役に立たなくなってしまうということも予測されます。ぜひこの3・1・34号線の早期の着手、完成をお願いしたいなというふうに思っているところでございまして。

それから2番目、②番でございまして。これがやはり都市計画道路の立川3・3・30号線ということございまして、②のあたりに自衛隊の立川基地があるんですね。東立川駐屯地というんですけども、この自衛隊との間でなかなか用地の取得方法が決まらずにいたんですけども、その自衛隊の東立川駐屯地の道路部になった分の、その代替用地を、私どもで持っております競輪の駐車場があるんです。これを提供しますということで、ほぼ



自衛隊と東京都のほうも合意いただいて、いよいよ環境アセスに入ろうかというお話を伺っているところでございまして、ぜひこの件につきましても、先ほどから述べておりますとおりの、その南北交通の円滑化のために、ぜひお願いしたい道路でございます。これが開通すれば、国立インターへアクセス、すぐにアクセスができるということでございます。

それから、次には、これは直接東京都の仕事ということではないんですけれども、緑の⑤になります。この中央線の三鷹―立川間の立体化ができたんですけれども、複々線化がまだ着手できないでいるということで、大変、宝の持ち腐れのようなことになっております。いずれにしましても、30年、40年前に中央線の朝晩の混雑ぐあいというのは、乗車率200%、いまだにそうでございますので、ぜひ多摩都民の交通面の向上のためにも、本来的にはJRと国のお話とは思いますが、ただ、ここまで参りますと、何がしかの形で東京都に出張っていただかないと前に進まないだろうと、こういう見通しを持っているところでございまして、これにつきましてもぜひよろしくお願ひしたい。

それから、最後でございます。これは例の立川駅周辺に観光情報センターをつくりたいというお話でございます。これにつきましては、ぜひ、多摩地区の、オリンピックのインバウンド対応というのが主眼だというふうなことも仄聞しているんですけれども、同時に、多摩地域の、経済や、あるいは交通や、あるいはさまざまな観光開発のためにも、多摩地区の情報を発信できるようなコーナーでもぜひいただければありがたいなというふうに思っているところでございます。

現在の新宿バスタも、若干のコーナー、ラックがあって少しパンフレットが置いてある程度なんですね。そうでなくて、多少、多摩地区の観光情報の紹介、多摩の産物の紹介ができるぐらいの、コーナーよりも、もう少し人を配置できるぐらいの場所を、とっていただいて、それを発信していただければ、まさに2020年のレガシーが、そのコーナーから、その場所から発信できるかな、つくり上げていけるんじゃないかなというふうに思っておりました。

そんなことで、まだまだ申し上げたいことはたくさんあるんですけど、時間の都合もございまして。おおむね、今、申し上げた内容で、ぜひ知事にはお骨折りをいただければというふうに思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からのご発言をお願いいたします。

○都知事 はい。幾つかポイントでご要望をいただきました。

最初に、南北交通網の整備でございますけれども、おっしゃいますように、防災拠点を確保するという点で、色々ご協力いただいた、その機能を高めるという点では重要な案件だというふうに認識しております。事業化に向けて、都としても取り組んでまいりますので、その辺は、これからもスムーズな進展につながりますように、互いに協力を進めていきたいと思っております。

それから、JR中央線の複々線化でありますけれども、今も乗車率200%という話で、快適通勤ということを目指しておりますので、そのおっしゃる意味はよくわかります。一方で、ご指摘ありましたように、都がどこまでできるかという話もございますけれども、まずは、国と鉄道事業者、それから、沿線の市の関係者ということになろうかと思っておりますけれども、費用がかなりかかるという点とか、採算性の確保など、課題をちょっと整理をしていかなければならないと思っておりますので、まず、課題検討ということにさせていただきたいと存じます。

それから、情報発信でありますけれども、観光情報センターであります。ぜひ、これは十分連携をとりながら、どちらが効果的なのかも含めて進めていきたいと考えております。

それから、2020年のオリンピック・パラリンピック、それからその前の2019年のラグビーもございますので、オリンピック・パラリンピックはオールジャパン、もちろんオール東京という意味で進めていく。そして、それは国内のみならず海外への積極発信のチャンスだと思っておりますので、ぜひ、多摩地区からの発信基地として、しっかり連携させていただきたいと思っております。

ファーストなどの資源を生かしていくということでございます。文化そして景観などさまざまな観光資源を活用して多摩の魅力を向上させるということで、ただラックに置くだけじゃなくて、色々工夫が必要だと思うんですね。パンフレットを手にとってくださいれば、それはそれなんですけれども、でも、いろんなちょっとした知恵で、さっきのクールビズの話じゃないですけど、あれもほんのちょっとした知恵なんです。そして、私がいつも言う「大義と共感」ということで、共感の部分、ここはできるだけ知恵を出して、そしてこの言葉を使わせていただくとわかりやすいかと思っておりますけど、都民ファースト。だからマーケティングなんですよ。要は、どういうお気持ちでというか、そこら辺をしっかりとつかまえるということが、予算、費用対効果というのが格段に違ってまいります。これからも、ぜひ立川の魅力を、その磨き方なども含めてお考えいただいて、そ

して、立川を発信基地とさせていただきたいと思っております。

それから、前にご要望で、総合交付金関係でありますけれども、どうでしょうか。まず伺っておいたほうがいいでしょうか。

○立川市長 いえ、私どもの思いは既にお伝えしたつもりでございます。

○都知事 そうですか。扶助費の増加とか、それから公共施設が老朽化しているということで、その更新などは、住民サービスに直結する、皆様にとって喫緊の課題かと存じます。これについては、メリハリをつけて、そして住民の安全安心に関わる事業としての認識を持ちながら対応させていただきたいと、このように考えております。

立川は、むしろ人口が増えているんですね。

○立川市長 はい。増えています。

○都知事 どの層が増えていますか。

○立川市長 昨年の、平成28年1月1日と29年の1月1日では1,600人増えています。

○都知事 若い層ですか。

○立川市長 若い人ですね。その証拠には、何というんでしょうか、小学校のクラスを増やさないといけないとか、それから、学童、保育園、これは毎年毎年100人以上その定員を増やしているんですが、依然として3桁レベルの待機児がいるという状況ですね。

これも動向が、どの地域へどのぐらいの若い人たちが集まってくるかどうかというのは、なかなかわからないんですね。今、400とか500室のマンションがぽんと一つできると、途端にもうそこは、学校から幼稚園から保育園から全部足りなくなってしまう。そんな状況がありますので、なかなか見通しを立てるのも、どういう見通しですかという質問をされると、いや、地域的にはどこどこがどうだか見当が付きません、というふうな状況であることは確かなんです。

○都知事 まあ、新旧の住民との、何というんですか、意識の違いとか、色々新たな、人口が増えることは、これは、減るよりは。

○立川市長 うれしいですけどね。

○都知事 はい。うれしい悲鳴だと思いますけれどもね。

待機児童対策についても、今回、来年度予算でしっかりつけさせていただきました。それから、もう間もなくでありますけれども、昨年につけました126億円の補正予算もございますので、もう一度見直していただいて、駆け込みで結構でございますので、しっか

り活用していただければと思います。

ただ、保育士さんが足りなくてということは、もうこれはあちこちから聞いておりますので、それについても今回、来年度の予算でもしっかりつけさせていただいております。ぜひそういったニーズにきめ細やかにお応えいただければと、このように思っております。現場のほうですからね、まさしくね、頑張っていたきたいと存じます。

○行政部長 清水市長、ほかにはよろしいですか。

○立川市長 はい。

○行政部長 そろそろお時間でございます。知事から最後に発言をお願いしたいんですが。

○都知事 はい。今日はお話を直接伺うことができまして、ありがとうございます。今日いただいたご要望、ご意見を踏まえまして、多摩振興、しっかり取り組んでまいりたいと、このように存じております。立川のリーダーとして、これからもますます頑張っていたきたいと存じます。どうも今日はありがとうございました。

○行政部長 これをもちまして終了とさせていただきます。ご多忙のところ、ありがとうございました。

(了)

『稲城市』

平成29年2月13日（月）

10時40分～11時00分

○都知事 座ったままで恐縮でございます。今日は都庁までご足労をおかけいたしております。また、日ごろから都政の運営に関しましてご協力いただいていることを感謝申し上げます。また、日ごろから都政の運営に関しましてご協力いただいていることを感謝申し上げます。

今日は、来年度予算の枠を決め、そしてまた、交付金についても上乘せという流れの中で、現場のお声を伺う、そして、ご要望を伺っておくという機会でございます。

見える化を徹底するということで、インターネットで中継しておりますので、どうぞ、市民の皆様にも呼びかけていただくなり、率直なお話を伺わせていただければと存じます。

多摩地区の、この活性化ということ、私もしっかり取り組ませていただきたいと思います。いるわけでございますけれども、特に高度成長期と、そして成熟期で、かなり山、谷といましようか、まだ谷には行っていないと思いますけれども、谷に落ち込まないためにどうするかという、そういうことが必要かと思えます。

稲城は大変緑が豊かですし、ナシとかブドウとか本当に自然に恵まれていらっしゃる。それから、都市への通勤が便利なベッドタウンとして成長を続けておられると聞いております。今日は、そういう中で、市の実情、それからご要望、直接伺わせていただきますので、どうぞ時間をたっぷりお使いいただければと思います。よろしく申し上げます。

○行政部長 それでは、高橋市長、ご発言をお願いいたします。

○稲城市長 まずは、小池知事には、このような機会をつくっていただきまして、誠にありがとうございました。知事に就任される前から電線の無電柱化を推進する首長の会では大変お世話になりました。引き続き電線無電柱化についてもよろしくお願ひしたいと思ひます。

最初に、稲城市の状況から概略をご説明なんですけど、少しカラフルな地図で見にくいかもしれませんが、稲城市の地図でございます。このアイボリーの色のところが多摩ニュータウン地区、向陽台、長峰、若葉台という地区で、既に開発が終わっております。そして紫色に塗ったところが区画整理事業で面整備をしているところ、その終了したところなんですけど、問題は今、赤い斜線のところ、それから青い斜線のところ、赤い斜線が市施行の区画整理事業をやっているところ、青い斜線のところは組合施行でやっているところ

ろであります、ご覧になっていただいでわかるように、非常に面積的に広いところが区画整理あるいはニュータウン開発で行っているところでもありますけども、稲城市の市街化区域面積に対して、いわゆるこの開発面積、区画整理とかニュータウン、開発を行っているところが4割を超えるという形でありまして、大変最近では町並みがきれいに整っているというふうに好評をいただいておりますが、一方で、市域に占めるその面整備をやっているところが非常に多い。また、これが終わっているわけではなくて施工中ということでございまして、大変多くの財源が必要になってまいります。特にこの間、不動産バブル崩壊から、失われた20年間、景気低迷があった時期と、稲城が面整備をやっている時期が非常に重なっておりまして、国からの投資的な補助金、あるいは東京都からの財政支援についても先細りの中で稲城は今まちづくりをしているという中では、非常に財政的に厳しいという状況を、まずお話をしたいと思えます。

これは1番目なんですけど、そうしたハード整備が、非常に財源的に厳しいということでございまして、引き続き、今、東京都におかれましては、補助金をぜひお願いしたいということと、国に対しても、このこうした面整備等々のハード整備の補助金について、ぜひお口添えをいただければありがたいなというふうに思っております。

特に、ニュータウン開発というのは終わったというふうに先ほどお話をしたわけでありまして、この中で、小学校、中学校あるいは給食調理場など、一時期に用意をしなければいけないということで、その建設についてはURの建て替え施工という手法で行っております。先に面整備で、人が住む前に小学校、中学校、給食調理場を建てて、後で分割払いでそれを市が買い取っていくというスキームなんですけど、当初は、国の補助金、東京都からの補助金、そして地元の市負担の部分は東京都がそれを肩がわりしていただけるということで、実質地元負担ゼロで建つということでお話があったんですけど、この間、東京都の財政事情もあって、10割補助が見直されて、結果的には、このニュータウン内の義務教育施設等で市の新たな負担が100億円になってしまったと。こういったことも、これを今から遡って補助を元に戻してくださいということをお願いするわけではないですが、やはりこういったニュータウン開発等々で相当の地元負担というのが増えてきているということでございまして、ぜひそういった意味でご配慮いただきたいと思えます。

2点目は、先ほどお話がありました総合交付金なんですけど、もちろんこの総合交付金自体は、予算補助という制度の中では、東京都の予算の中で計上された、いわゆる負担金というようなものではないということでお話をいただいております。私もかつて市の職員を

やっていたころには、財政当局からのお話では、これはあくまで予算補助なので、将来これがなくなることもあり得ると。ですから、余りこれに依存してまちづくりを進めては困るというようなことも伝わっていたんですが、ただ、この中身はさまざまな事務事業について東京都から移管をされた業務、その財源として措置をされている部分もあります。ですから、一般的に地域振興というまるっきりの補助の意味でなくて、法律的には都道府県の業務が、東京都の特例条例に基づいて市が事務を行っている、その財源負担という意味合いのところもありますので、ぜひ今後とも、市町村の状況を踏まえながら、総合交付金についてはご配慮をいただきたいというふうに思っています。

そして、3点目なんですが、これは私が市長になってからの懸案でもあるんですけども、市内に都民住宅があります。この1階部分が今空いているところがあるんですね。かねてより、その地域の自治会から、そのエリアに介護指定事業者あるいは介護予防の事業者がちょっと少ない、空白地帯でありまして、どうせ空いているのであればそこを、住宅ではないんですけども、介護保険の指定事業者の事務所あるいはサービス提供の拠点として有効活用したい、その要望がありましたものですから、私のほうから東京都のほうに再三にわたって、ここを何とか有効活用させていただけないかと。もちろん無料でということではなくて、家賃をお支払いしてということを取り組んできたわけではありますが、この間、住宅についてはなかなか転用が難しいということで、余り色よいお返事はもらえなくて、5年ぐらいたっているんですが、ぜひ都知事の判断で、こういった空き部屋、しかも空いているわけなので、そこを、地域のニーズもありますので、介護予防あるいは介護保険の事業所としてお貸しいただけないかと、ぜひお考えていただければと思います。

当面の大きな課題として都知事にご要望させていただきたいのは、以上の3点でお願いしたいと思います。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からご発言を願います。

○都知事 はい。ありがとうございます。過去15年で人口が2万人近く増えているんですね。さっき都営住宅、都民住宅があいているということですけど、それは新しい、全然また別のところにお入りになる方のほうが多いということでしょうか。

○稲城市長 いわゆる稲城市の建物は、比較的新しいものが多うございまして、一部には5階建ての箱型団地でエレベーターがついていないような昔の公社型の団地もあるんですけども、この都民住宅については、エレベーターもついているし、そういった住宅ではあ

るんですけども、昨今の、防犯上の問題等々を含めて、1階に余り住みたがらない。逆に箱型団地であると、上の階だとエレベーターがないので下におりたいという転居の要望があって、1階が埋まるんですけども、逆にこういった新しい建物は、不思議なんですけど、1階があいてしまうんですね。そこで、それほど古い建物ではないですが、1階部分がかなり空き室が多いということ。

○都知事　そういうのって、稲城の特徴なんですか。それって、ほかでも同じような状況であるならば、何か1階の使い方をちょっと考えたほうがいいかもしれないですね。

○稲城市長　そうですね。家賃収入も増えるわけですし、お互いウィンウィンなのかなと思ってございますけど。

○都知事　まあ、この件については、今、有効な活用策を検討しておりますので、今のお話も現場の声ということで受けとめさせていただきつつ、地域の住宅事情から、それから高齢化の状況を得たご要望として、個別の協議と、それから今、共通項である問題であるならば、それをどのような形で生かしていくか、反映できるようにちょっと私も心がけておきたいと思います。

それから、最初、土地区画整理事業のご要望でありますけれども、本当、まだ開発中のところがそんなにたくさんあるんですね。先ほどお話がありました2地区については、助成の規定に基づいて約42億円、財政的な支援をしてきたわけでありますけれども、引き続き、この助成規定に基づいて、財政的な支援と、それから技術的な支援についてはさせていただくということでもあります。これ、土地区画整理事業に対する支援の件ですね。よろしいですか。ごめんなさい。ちょっと前後左右しておりますけれども。

それから、今に関連して、都市計画道路の整備の促進でありますけれども、この土地区画整理事業に合わせて、周辺道路の整備ということは、大変、当然重要でありますので、ご要望のあります号線についても、早期開通に向けて事業については推進をさせていただくという、そういう姿勢でございます。

それから、その1番目の、すみません、逆になっちゃいました。ハードの整備に関しての財政的な支援なんですけれども、住宅建設の対策補助ということは、市の財政にとっては重要な財源補完制度ですから、都として引き続きまして市への財政支援を適切に行ってまいるといって1点。それから、先ほどの道路の話でありますけれども、市町村土木補助というのは有効な支援制度でありますので、これについても適切な支援を行ってまいります。



それから、お話にありませんでしたけれども、洋式トイレに変更ということ、今回、来年度予算にはしっかりと盛り込んでおりまして、洋式トイレの整備であるとか小中学校の冷房機器の設置などなど、対策が急がれるものについては引き続き支援を行ってまいります。

それから、根本的な市町村総合交付金の充実でありますけれども、これについては、市町村の財源補完としての役割を十分果たしていくということは重要であることは言うまでもございません。地域の実情を踏まえた効果的な支援を続けていきたいと考えております。

それから、無電柱化、市長の会で大変活躍していただいて、おかげで国のほうの法律ができました。促進のための法律ができ、そして、それを今度は東京都としての条例づくりをこれから進めていくところであります。これについては、大分技術的な、それから制度的に変更がこれからも大きく生じてきますので、それによってコストを削減するであるとか、それから、住民の皆様方のご賛同がいただきやすいような方向性を持っていくものになる。つまり工事が早く済むとか、そういったことも含めて総合的に進めていきたいと思っております。

特に、市役所前の区間の都道についてのご要望があると伺っております。ただ、ご指摘の都道については第2次緊急輸送道路であります、どういう形で進めていくのがいいのか、順番を変えるのかどうかなども含めて、連携をとらせていただきたいと、このように思っております。ぜひ、稲城市、無電柱化のまちとして、あれだけ区画整理などをやっていらっしゃるんだったら、逆に最初からそれを入れ込む形でね。最初からそれを入れ込む形でお進めになればいいわけですよ。

○稲城市長 進めてまいります。実は無電柱化につきましては、私も、推進する首長の会、小池先生の書いた本をサイン入りでいただきましたけれども、この中に入っております挿絵、写真ですね、この最初のページに入っているところも稲城市の向陽台というところでありまして。

○都知事 はい、はい、はい。

○稲城市長 まさに参考にしていただいている部分はあるんですが、現時点で稲城市の無電柱化率が、計算上19.55%。全国平均が2%、23区内が7%ぐらいというふうに聞いておりますので、恐らく、全部比較検討したわけじゃないんですが、全国トップなのかなというのが今のところの認識でありますけれども、多くは、多摩ニュータウン地区の面整備の中で、東京都から多大な財源を出していただいて、当時は電線共同溝方式で、これ

はすごいお金がかかるんですけども、それでやっていただいた部分が多くて、それが19.55%の反映なんですけど、実際それ以降、余り私どもの市道ではなかなか進んでいないのも現実的で、もう19%まで一旦行ったんだけど、それからなかなかかさ上げができていないのは事実です。

現在やっております南山のこの区画整理等を、これはそのまちづくりの中で、都市計画道路については最初から無電柱化をしようということで、市のほうで取り組んでいる新たな道路についても、なるべく電線を、もう電柱を立てないようにしようということでやっております。

一方で、今回は東京都のほうでお願いしている、また取り組んでいただいているのは、新設の都道については原則電柱を立てないということであるんですけど、残念なことに、稲城市市役所の前の尾根幹線道路、緊急輸送道路に指定をされている部分があるんですけど、新設されたところは全部電柱はないんですけど、一番古い築造の市役所の前のところが電柱がまだあるということですね。見映え的にも、全国トップクラスの無電柱化をやっているという割には、市役所の前に電柱があるものですから、ぜひこれを撤去していただくと、かなりイメージが強いのかなと。

先日、油圧ショベルを上げたまま市役所の前を通ってしまった車があって、上にひっかかって、切れちゃったんですね。幹線ではなかったのですが、少し影響は少なかったんですけど、やはり消防署への通報ラインがそこで切られてしまって、ちょっと緊急事態については問題があるような状況があったものですから、なるべく早期に解消していただければありがたいなということではあるんですけども、できれば都道のみならず市道も連携しながら、なるべく新規の電柱は立てないような方向で今後も整備をしていきたいなと思っております。

○都知事 ありがとうございます。東京消防庁への消防委託、消防本部を市単独で持っておられるのは稲城市だけだと聞いております。今のは第2次緊急輸送道路ではありますが、市役所が防災拠点になるということなどを鑑みて、そこは順番を変えていくとか、そういう融通をきかせることができないか考えていきたいと思っております。

○稲城市長 ありがとうございます。東京都で島しょ部を除いては唯一の市単独消防という意味では、いろんなさまざまな賛成、反対、ご意見はあるところではありますが、地域との密接関係、非常に消防署員が全て市の職員で転勤がないというところではメリットも大きいということで、我々、次の10年間も、計画の中では単独消防を維持しよう。

昨今、大規模な災害がありまして、そういった意味で、対応が本当にできるのかというご心配の意見も聞きます。そこで、実は4月に完成して運用を開始するんですが、出張所をここで建てました。本署が仮に倒壊あるいは使えなくなったときでも、バックアップの施設をつくろうということで出張所をつくっておきまして、器材、人員の増強についてはある程度万全を期しているところでございますけども、東京消防庁さんとも広域応援協定を結んで、相互に出張し合っているということもありますので、引き続き、加入はしていないですけども、相互の応援協定自体はこれからも円滑によろしくお願ひしたいなと思っています。

○行政部長 そろそろお時間でございます。最後に知事から。

○都知事 はい。ありがとうございました。防災の観点からもしっかり消防のほうは連携をとって、地域と、局地的な部分と連携、都全体で連携を取ると、その両方でよろしくお願ひしたいと思います。

とても具体的なお話を聞かせていただきました。これからもどうぞ、車の両輪として頑張らせていただきたいと思っていますので、市長のほうも、これからも頑張ってください。

○稲城市長 本日は、このような機会をいただきまして、ありがとうございました。今後とも、東京都と連携を図りながら、一緒にまちづくりを進めていきたいと思っています。本日は大変ありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了とさせていただきます。ご多忙のところ、ありがとうございました。

(了)

『八丈町』

平成29年2月13日（月）

11時00分～11時20分

○都知事 おはようございます。ご遠方から都庁にお越しいただきまして、ありがとうございます。日ごろより大変お世話になっております。ありがとうございます。

今日は島しょ部の振興、それも八丈のさまざまな現場のお話を伺って、来年度予算をより効果的に生かしていくということでございます。ご要望など、直接伺わせていただければと存じます。

それから、都政の見える化という観点から、このやりとりにつきましても、情報公開として、ネットでそのまま公開させていただいておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

八丈にも伺いまして、黄八丈など、きのう私、テレビの収録がありまして、たけしさんの番組なんですけれども、そこで黄八丈をいただいた、すばらしいスカーフを巻いて出ておりますので、そのときはお知らせいたしますので、ぜひご覧いただければと思います。

それから、八丈には本当に素晴らしい、この島を彩る四季の花であったり、黄八丈など宝物がざくざくとあるということで、今、島しょ部の宝物探しといいたししょうか、島しょ部は宝の島だということで、宝島構想という形で取り組ませていただこうと思っております。ぜひ八丈に、さらにこの宝物がますます町の発展に、島の発展につながるように、都としてもサポートしていきたいと思っております。

今日は島の実情、そして、ご要望を伺わせていただければと存じます。よろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、山下町長、ご発言をお願いいたします。

○八丈町長 おはようございます。今日は職員も黄八丈のネクタイをしてまいりました。本当に日ごろより、島しょ振興にご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、町村の財政事情ですが、脆弱でして、自主財源の少ない中、東京都の支援、特に総合交付金が頼みの綱でございます。知事さんにおかれましては、多大なご理解をいただきまして、誠にありがとうございます。

現在、八丈町において、一番の課題が少子高齢化と人口の減少傾向が顕著になっているというところでございます。そのような中、平成29年度、子育て、教育、農業、漁業、

観光の振興など、多くの課題に取り組んでいるところでございます。

個別の事業について申し上げますけれども、八丈町においては、公営企業として、病院、水道、バスの3事業がございまして、いずれも大変厳しい経営状況となっており、一般会計からの繰り入れにより対応しているところでございます。

病院事業につきましては、継続した医療体制の維持、また、地域包括ケア病床を含む病床利用率の向上を図っておりますけれども、入院患者の減少、また、外来患者の診療単価の減によりまして、赤字経営が続いております。また、医師や医療技術職の確保についても引き続きご支援をお願いしたいと思っております。

水道についても、近年赤字が続いている状況です。

また、バス事業につきましても、観光貸し切りバスの利用向上を図っているところでございますが、やっぱりバス事業においても、本当に利用率が低くて、経営状況が本当に厳しい状況となっております。この3事業が町の大きな財政負担になっているところは避けられない状況でございます。

2点目におきましては、平成30年度から国保会計の運営を東京都が担うとともに、国保税の改定は当然実施されると思っておりますけれども、それまでの構造的な累積の赤字部分について、年次計画で補填していかなければならない点がございまして、

3点目としましては、類似団体の同規模の町村に比べて、地形的なこともありますけれども、地域性といいますか、保育園が、0歳児保育も始めているところですが、需要が高くて、直営の保育園、あとはまた各地区にある公民館など、施設の維持管理に多大な管理費がかかっている状況でございます。単純に施設の統合というわけにいかない事情がございまして、地域の防災拠点や地域振興の施設としての位置づけもございまして、どうかご理解をいただきたいと思っております。

次に、東京都に対する要望事項についてですが、1点目で、地熱発電がございまして、現在、地熱発電事業者の選定が決まったところでございまして、その際の条件の中で、地熱発電の副産物である熱水の利用ができるような設備、計画を求めているところでございます。以前もございました地域農業基盤確立農業構造改善事業で財政支援をいただいたところでございますが、今後も地域の産業振興に役立てていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

また、東京オリンピック・パラリンピックを含めて、都の島しょ町村へのスポーツ合宿誘致のあっせん、また、受け入れ施設の整備、八丈町は雨が多いということで、現段階で

は構想の段階でございますが、できれば屋内運動場の整備などを考えているところでございますので、ぜひその面でも支援をいただきたいと思っております。

あと、都内の小中学生の林間学校ですか、そういう体験教室、他県で実施していることが多いと思っておりますけれども、島しょ部への、自然体験活動の適地がございますので、ぜひ島しょ部への誘いとしてのインセンティブを付加するためにも、都内の区市町村への明確な交付金をお願いしたいと考えております。

また、本年からですけれども、都立八丈高校への留学生の受け入れについて、あわせて今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。今年は八丈高校の園芸科に2人受験申し込みがありましたので。

○都知事 どちらからですか。

○八丈町長 都内からですね。東京都内から2人応募がございまして。希望者は5人ぐらいあるんですけれども、そういう中で、今年は2人ということで指定がありましたので。

○都知事 留学生で、八丈高校に入りたいということで、都内からね。

○八丈町長 はい。

あと、また、有人国境離島の関係でございますが、八丈が指定を受けているわけですが、住民への航空運賃負担軽減の導入につきまして、都の組織的な協力を、組織的に取り組んでまいりたいと、東京都と一緒に考えていきたいと思っておりますので、職員の協力と実施の際の差額運賃の財政支援につきましてもお願いしたいと。

最後にですけれども、現在の歴史民俗資料館の関係ですが、東京都の文化財に指定されております旧八丈支庁庁舎を借りて営業しているわけですが、耐震化が施されていないということで、平成29年度末で利用不能となってございます。現在、町で営業の継続を目指しているわけですが、色々国の空き建物等を賃借して、候補、また調査を行っているわけですが、なかなか議会のほうでも色々ありまして、現在まだまだ話し合いが続いている状況で、最終的には新しい資料館をつくらなければならないと目指しているわけですが、その際には、ぜひとも財政支援のこともお願いしたいと考えております。

最後になりますけれども、八丈町における平成29年度の予算では、主に産業振興に資する事業、また、子育てしやすい環境と次世代を担う子供たちの教育の充実を図る施策を実現するための予算計上となっております。脆弱な八丈町の財政に引き続き特段のご配慮をお願いしたいと思います。以上です。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いします。

○都知事 知事選の際に、私、最初に八丈に伺わせていただいて、そこで島の皆さんが集まっておられるような場所に行きました。そうすると、ここは子育てがしやすいと言って、若いカップルが大変誇らしげにおっしゃっていたのをよく思い出します。そういう中で、残念ながら人口のほうは減少をしているようでございまして、ぜひ市町村総合交付金、今回増額させていただいております。うまく活用していただいて、また、島の魅力などをしっかりアピールする、それから、島の皆様方の生活の向上などにお努めいただきたいと思っております。よって、交付金の増額分、地域の実情を踏まえた効果的な支援ができるように、都としても努めてまいりたいと考えています。

それから、先ほど公営企業の会計が厳しいといったような話がございましたが、これ、局長のほうからお答えいただいたほうがいいでしょうか。それとも、私のほうが先にお答えしておきましょうか。

それじゃ、私のほうからまとめて、あと個々のご要望がありましたけれど、地熱発電で出てくる、この熱水を活用して地域産業振興をしたいということでございます。この点については、農業生産施設の整備、熱水を活用してね、これについては具体化した段階での支援を行っていく考えでございます。

それから、オリパラで、島しょ部へのスポーツの合宿誘致への支援でございますけれども、事前キャンプ地の誘致に、このために昨年度から実施しております施設整備補助事業、これを来年度予算で拡充をすることとなっております。また、各国からの事前キャンプを招致をするという、そのための専用ホームページで体育館施設を紹介するといったような、市区町村についてはキャンプ地の誘致に積極的に支援をしていく考えでございますので、受け入れてもらえるように、まずPRから始めないといけませんので、そこは連携していきたいと思っております。

それから、林間学校ですね。体験教室など、実施する島への増額交付というご要望でございます。島しょ部の魅力をしっかりと情報提供をして、この林間学校、私も子供のころ、島、夏のキャンプ、島一つ丸ごと使って、かくれんぼとか鬼ごっことか、大変いい思い出もございます。そういった意味では、東京の島を林間学校として活用するというのは、大変子供たちの記憶にも残るといったことだと思います。確実な足の確保、これができることによって定着するかと思っておりますので、総合的にその点については見ていきたいと思っております。

それから、国の法律が変わって、特定有人国境離島、三宅島の以南でございますけれども、特定国境離島との格差解消ということでございますが、航空路は重要な交通手段でございまして、その運賃を下げるというのは切実な課題であるというふうに認識しております。こういう点については都としてしっかり対応させていただきたいと考えております。

私から、具体的なお要望についてお答えしたところですが、局長のほうからも付随させていただきます。

○総務局長 今お話にございました、まず、公営企業の問題でございます。水道、バスというのは、本当に生活に不可欠なインフラであるというのは申すまでもございませぬし、また、病院なども、今後ブロードバンドも活用した医療水準の向上など、課題は多くあるかと存じます。このような問題につきまして、総合交付金を活用して、しっかり、また維持向上に向けてご相談をしてみたいというふうに思っております。

それから、2点目といたしまして、現歴史民俗資料館が耐震性の問題で間もなく使えなくなるというお話でございます。今、島の中でもお話が進められているということでございますので、今後、都としても具体的なお話を伺った上で検討してみたいと、このように思っております。

それから、かねてから伺っております総合交付金の繰り越しをした利用ということでございます。総合交付金は年度単位の要件をもとに算定する仕組みにはなっておりますけれども、より使いやすい制度ということで、これからまた一緒に検討してみたいと、このように思っております。

以上でございます。

○行政部長 山下町長、いかがでしょうか。

○八丈町長 本当にいろんな要望に対しましてご回答いただきまして、本当にありがとうございます。

子育ての関係ですが、知事さん、力を入れているところですが、待機児童といいますが、本当に調整しながら、人数的には間に合っているんですけども、やっぱり今ちょっと女性が働くということで、0歳児からの要望が多くありまして、現在は坂上地域というところで0歳児保育をやっているんですけども、以前想定していなかった坂下地域の0歳児も要望が強いわけですし、そういう中で施設整備とか、あと人材が、やりたくても人材がなかなかないという部分で、本当に苦労しておりますので、坂下地域でも0歳児をやって、子育て支援をやりたいなと思っております。人口は減っていますけど、特



殊出生率は2.07ぐらいありますから、そういう意味で、やっぱり年間、自然減で80人ぐらい減になります。そういう状況の中で、ぜひご支援のほどよろしくお願いいしたいと思います。

○都知事 幾つか島を回らせていただいて、結構Iターンの若い家族が多いなど。そこで人口増になっている島、人口200人とか300人の島などなどなんですけれども、この八丈というと、非常に昔からの方々のご家族が、地縁、血縁が明確なところだと思うんですけれども、そして、おばあちゃんに子供さんを見てもらうとか、そういったことは都内の中心部などよりはかなり、想像するにですけれども、そういった点では0歳児の保育が増えているというのを聞いて大変びっくりしているんですが、そういう人たちってIターン系の方なんでしょうか。

○八丈町長 はい。実際、公務員の異動が多いものですから、もう3月の時点では大体待機児童がないように措置するんですけれども、異動してきた公務員といいますか、警察署の職員さんとか、そういう部分でやっぱり待機が出ちゃう。3月の時点で出るという状況がございます。調整して待機児童をなくすようにはしています。努力はしているのです。

○行政部長 そろそろお時間でございます。最後に知事から一言お願いいいたします。

○都知事 ありがとうございます。八丈と青ヶ島は近々訪問させていただく予定としておりますので、大変期待をいたしております。また、黄八丈についても伺いたいと思っておりますので。

○八丈町長 お待ちしております。

○都知事 ありがとうございます。楽しみにしております。

○八丈町長 知事さんに来ていただきたい、ぜひ。

○都知事 ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいいたします。

○八丈町長 どうもありがとうございました。

○行政部長 それでは、以上をもちまして終了にさせていただきます。ご多忙のところ、ありがとうございました。

(了)

『神津島村』

平成29年2月13日（月）

11時20分～11時40分

○都知事 座ったままで恐縮でございます。大変お忙しいところ、またご遠方からお越しいただきまして、誠にありがとうございます。平素よりも都政運営にご協力を賜りまして、ありがとうございます。

今日は直接、来年度予算をより効果的に活用していただくということ、それから今、大きく産業なども変わっている中で、変化を遂げる中で、これからも島の皆様方により発展していただくためには、宝島探しということで、都としてもこれからしっかり連携をさせていただきたいと思っております。直接ご要望を伺おうということで、全て都政の見える化という観点から、情報公開でネットでこの公開させていただいておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

それでは、早速でございますけれども、どうぞ、ご要望のほうをお願いいたします。

○行政部長 それでは、浜川村長、ご発言をお願いいたします。

○神津島村長 おはようございます。小池都知事はじめ東京都の幹部の皆様とこういうふうな機会を設けていただきまして、大変感謝申し上げます。それでは、神津島村の知事との意見交換、そして行政運営上の課題についてご説明したいと思います。

私の島は神津島ということで、伊豆諸島のほぼ中央に位置しております。古来から伊豆諸島の神々が集まるということで、神集島と言われまして、神津島となっております。この神津島におきましても少子高齢化によりまして人口が減っている状況が見えます。それでも平成2年の国調が2,314人、平成22年の国調で1,889人ということで、約400人ほどこの20年で減少しております。しかしながら、一昨年(27年)の国調においては1,892名ということで、ほぼ横ばい、3名増えている状況ですので、情勢的には歯どめは少しはかかっているかなというふうに思っておりますが、こういう中で住民の生活がしやすいような形で、保育園の無料化、それから延長保育、知事も掲げております2歳児の待機児童をなくすようにということで取り組んでいるところでございますが、一部、島しょの保母の確保が大変厳しくて、今、知事の挙げているような形で手当が公立の保育園ではできないんですね。それは今、公募もしているんですけども、なかなか集まらないということもあります。また、技術職におきましては、保健師、看護師等も当村にお

いての募集はかなり厳しい現状が続いております。

また、今、人口減少対策におきましては、東京の島の先駆けとなりまして離島留学を28年から1名しております。これは昭和47年に都立高校が開始をされまして、当時は120名ほどいたんですけども、現在はもう32名というような形で、大変都立高校の経営も厳しいかなというふうに思っておりますが、以前から教育長と協議しまして、島留学をしようということで取り組んでまいりまして、昨年1名、29年度に3名の枠を今持っているところです。

都立高校の試験が来週と聞いておりますので、ここから3名来ていただければなというふうに思っておりますが、ただ、今、受け入れるほうが家庭のホームステイを原則としておりまして、なかなか365日お子さんを預かるということは厳しいというのが現状でありまして、なかなかホームステイ先を探せないというのがありまして、29年度に学生寮をつくろうということで、12月に設計の予算を上げまして、29年度、建築する予定であります。これにつきましては村の単独事業ということで単費でやるんですが、この辺におきましては、東京都において建築費用のご支援をいただければなというふうに思っております。

このことが、神津島高校につきましては、学力の向上等もありますし、新たな人を入れることで、保育園から島の場合には中学まで同じですので、さらに高校になると同じメンバーで来るということで、ぜひ新たな血を入れながら活性化していければなというふうに思っております。この子供が1名、昨年来たことによりまして、家族が島のイベントになると必ず土・日に来てくれるということで、交流人口も多くなるという、そういう位置づけもありますので、今後の人口減少の一つの対策としてやっていきたいなというふうに考えておりますので、ぜひご支援をお願いしたいなというふうに考えております。

また、健康社会ということで、住民健診の無料化を行って、早期発見して早期治療を行うと。島には診療所しかありませんので、そこで健診結果に基づきまして協議して、都内の病院に紹介していただいて治療するという事なんですが、現状は、がん等の治療で2カ月に一度放射線治療等をやっている方もおりまして、それらの支援を村が独自でやっている状況もありますので、ここら辺も含めてご支援願えればなというふうに思っております。これは宿代とか航空賃、それから船賃などの支援をやっている状況です。かなりやはり生活苦になるような状況も見えますので、そこら辺はしっかりと支援していきたいなというふうに思っております。

また、産業の分野なんですけども、島は第一次産業の漁業、農業、そして第三次の観光というふうに3本柱が島の経済を支えております。特に漁業におきましては、東京都の単一漁協ではトップだと思うんですが、一昨年は10億4,800万円、昨年も10億8,500万円というふうに水揚げ高を上げております。ただ、水揚げ額は1位なんですけども、水揚げ量、漁獲量は八丈のほうが多いということなんですけれども、それだけ魚価の単価が高いということで。

○都知事 何が。

○神津島村長 魚価。魚の単価が高いということで、水揚げの量よりも単価が高いことによって水揚げ額が多いというふうな結果が出ております。

ここは、うちの場合には漁協の組合員が352名いるんですが、登録が130隻ぐらいの漁船の登録をしております。この中で、後継者育成がうまくいったのが、若い世代が70隻ほど漁をしているということで、主たるものがキンメダイの漁なんですけども、水揚げの8割がキンメダイということです。ただ、これも国並びに東京都の支援によりまして漁港が整備されたことによって、漁港の整備と比例して水揚げが上がっているということで、大変感謝を申し上げます。安心して帰れる港があれば操業ができるということで、今後とも、港湾、漁港の整備はお願いしたいなというふうに思っております。

こういう中で2点ほど要望がありまして、まず、新清掃センターを29年造成、30年、31年とつくる予定でありますが、何しろ規模が23億円ほどかかりまして、村の決算額が大体27億から28億で推移しております。こういう中で、3分の1国から出るんですけども、それ以外はルールで東京が3分の1、あとは村が起債、そして一般財源を出すような形になりまして、大変厳しい状況だということで、特にうちは過疎ではなくて辺地なものですから、過疎債が借りられないんですね。辺地債は、その清掃センターには充当できないという、こういう厳しい状況がありまして、公共などの貯金をおろしながら充当しているところなんですけども、かなり厳しい財政運営かなというふうに思っておりますので、ぜひそこら辺もご支援いただければなというふうに考えております。

2点目は、先ほど申したように学生寮をつくっていききたいというふうに思っておりますので、ぜひここは学生寮の支援を総合交付金等で支援していただければなというふうに考えております。

小さい島なんですけども、全てやはり大きい島と同じように、都内と同じように揃えなくてはならない。社会資本を整備しなきゃならないということで、清掃センターも火葬場

も最終処分場もということで、同じようにそろえていくのにはかなりの財政が必要になってきますので、そこら辺をよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日はありがとうございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願ひいたします。

○都知事 ありがとうございます。まだお伺ひはしておりませんが、楽しみにしております。

例えば、東京へいらっしゃる際はどのようなルートで来られるんですか。

○神津島村長 今、調布へ航空機が入っております、少し、自分も高校は東京だったので、椎名町に入りまして、知事の一声は西池袋通りでお伺ひいたしましたので、そこで借りて帰っております。

○都知事 調布ですね。調布へ、どれぐらいの頻度ですか。

○神津島村長 月、もう3回から4回ですね。

○都知事 いえいえ、あの1日に。

○神津島村長 1日に3便です。

○都知事 1日3便。

それで、ご要望の点でありますけれども、具体的には、新清掃センターの建設工事、財政負担ということですね。それから、神津島の学生寮の建設工事の財政負担ということでもあります。今回、市町村総合交付金全体の額を増額をいたしました。それによって有効に活用していただけるようにしたいと、このように考えておりますが、地域の特性を踏まえたまちづくり事業を推進するというので、貴重な財源となっております。地方債の活用に係る適切な支援なども含めまして、地域の実情を踏まえた効果的な支援ができるように努めてまいりたいと存じます。

ちなみに、この新清掃センターですけど、これ、建て替えということになるわけですね。

○神津島村長 そうです。平成8年ですので、約20年しかやほりもたないというのが現状ですね。

○都知事 そうですね、ごみの、廃棄物の量そのものは、どのような推移になっておりますか。

○神津島村長 分別して、資源ごみ等を分別しているんですが、第一次産業が多いものから、生ごみがやはり多いということで、その可燃をする形で量は増えているんですが、灰については大島の処分場のほうには出しているんですけども、可燃がやはり多いの

か、炉が傷んでくるというのが現状でございまして、それと、塩分がやはり含まれているのか、毎年メンテナンスを2,500万円ぐらいかけているんですけども、それでも20年しかもたないという。

そういう中で、移すのに、さらに急峻なところですので、平地が少ない関係で、清掃センターをつくるのに整地したりするのに、また、今は国立公園内ですので、自然公園とか、あとは河川法とか、いろんな問題がありまして、思ったところにつくれないということで、造成費用がかかるという、そういう現状が予算額を増やしているということです。

○都知事 先ほど漁業について、キンメダイを中心という話を伺いました。そのほか、岩のりとか例のクサヤとか、色々海の幸に恵まれておられて、お話の中に若手の漁師の方々が結構頑張っておられるということですけど、これ、2代、3代、4代とずっと続く家庭の方々なんですか。

○神津島村長 中にはそういう方もいますけども、今は30代から50代までの方が船を持ちまして、中にはIターンで来ている方も3隻ほどいるんですけども、本当にうまく世代が交代したなということで、神津島近海、そして三宅近海、八丈近海ということで操業しておりまして、それと、今、魚価の単価、魚の単価が高いということなんですけど、それを、うちは伊豆諸島で、うちだけなんですけども、仲買制度がありまして、市場に揚げると、朝、夜、札を打つ、入札をするということで、業者がすぐ買い取って築地に送るという制度なものですから、魚価の単価が高いんですね。1匹当たりの。そういうことが島の経済を支えているということなんですけども。

○都知事 それは、ほかの島とは、まあ、唯一とおっしゃったんですよ、今。島の中でそういった制度を使っているらしい。

○神津島村長 ええ。ほかの島は共同出荷といって、みんなでパックをして築地に送り込む、送り出すということで、築地で値段が決まる状態なんですけど、うちはもう揚げた途端、朝と夕方、2回、業者は5業者いますので、そこでもうキンメはキロ幾らだというふうに黒板にもう張り出されますので、そこでもう買い取ってしまうということで、あとは業者が築地に出すとか、下田とか小田原とかということで出荷しているということです。

○都知事 はい。それから、あと、島焼酎を、今回、酒税で特区の指定を受けておりますので、ここもうまく活用していただいて、さらに産業振興に生かしていただければと存じます。

○神津島村長 うちはもう焼酎は「盛若」という焼酎で、32階とか、以前は二庁の4階

などでも出させてもらいまして、以前は芋焼酎だったんですが、麦焼酎を出して、檜樽貯蔵で出荷しておりまして、以前から焼酎の生産はして、産業振興を図っております。

○都知事 それから、保育士さんと、看護師さんというか医療施設が足りないというお話ですけれども、今回、保育士さんについても、割り増しの収入になるような工夫もしております。ぜひ島の女性でも、もちろん男性でもいいんですけれども、保育士さんを目指す方々を育てていただいて、そして、そのことで島の人口の確保であるとか、安心安全につなげていただければと、このように思っております。

○神津島村長 はい、わかりました。保育士等の公設の場合に、今、知事のおっしゃっている手当が上げられないということは現場で聞いておりまして、地方公務員ですので、国の給与法に基づいた形でやっている。

○都知事 なるほど。その意味はわかりました。いずれにしましても、人口を確保し、かつ産業振興をしっかりとできるような環境づくりに都としても連携してまいりたいと、このように思っておりますので、これからも頑張ってもらいたいと存じます。

○行政部長 お時間でございます。知事、最後、よろしいですか。

○都知事 ありがとうございます。皆様方から直接お話を伺うことができました。いずれ伺いたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○神津島村長 ありがとうございます。

○行政部長 本日は遠いところ、ありがとうございました。

(了)

『奥多摩町』

平成29年2月13日（月）

11時40分～12時00分

○行政部長 では、知事から冒頭のご挨拶をお願いいたします。

○都知事 おはようございます。町長にはもう何度もお越しいただきまして、町村会を代表してご意見を伺ってまいりました。今回は来年度の予算を出させていただき、そしてご要望にお応えして、交付金の充実を図るようにもいたしました。そして、今日は奥多摩町長として、町のさまざまな実態、また課題、そして、これからのさらなるご要望を伺いたいと思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。いつもご遠方からありがとうございます。

ネットで中継しておりますので、よろしくどうぞ。

○行政部長 河村町長、ご発言をお願いいたします。

○奥多摩町長 おはようございます。小池知事には、就任以来大変お忙しい中、このような時間をつくっていただきまして、大変お礼を申し上げたいと思います。

また、昨年12月16日に東京都町村会としての重点要望をお願いをいたしました。早速でございますけれども、29年度予算の中では、全ての項目について手当をしていただいたと同時に、我々が脆弱な町村の状況をお話をして、ご理解をいただき、前倒しで10億円という市町村総合交付金を3月補正で計上していただくということで、町村会としては大変喜んでおります。大変ありがとうございました。今日は、そういう町村会の問題につきましては特別なご配慮をいただきまして、さらには、それぞれの町村の状況を聞いていただくということでございますので、私どもの町の状況を、今日はお話をさせていただきたいと思います。

私どもの町は、まだ過疎、それから少子高齢化が進んでおります。そういう意味では、この過疎と少子高齢化をどのようにしていくかということはずっと考えてまいりました。特に、昭和32年に小河内ダムが完成しておりますけれども、それ以降、人口の減り方は非常に大きいです。

私自身が今、町をどうしようかという大きな目標でございますけれども、少子高齢化の中で、我々の町をここまでつくっていただいた先輩たちに健康で長生きしてもらいたい。また安全で安心して住んでもらいたい。そのためには若者の定住化が必要であるというふ



うなことで、何年か前から若者の定住化にかじを切って進めてまいりました。それは、それをしないと地域の崩壊が起きてしまう。

今、実際には48.7%、65歳の高齢者がございますので、それを何とか少しずつ変えていこうと。一昨年は中学校を統合するというような状況でございますけれども、もうこの辺で、この町に住みたい、住み続けたいという人を、Iターン、Uターンをして帰っていただこうと。それはなぜかという、子どもは環境は非常にいいというふうに思っております。それから、水もきれいだ、人情が厚いというふうに自負をしております。そういうところで子育てをしていただく、それが一番いいのではないかと。ただ、残念ながら就職する口がなかなかないものですから、それがこれからの大きな問題かなというふうに思いますけれども、子供たちが伸び伸びと育ていただき、日本で、世界で、羽ばたける人間が出てきてくれればいいなというふうに思っております。

そのために基盤整備をずっとやってきたんですけれども、平成18年から10年かけて下水道を全部完備をいたしました。また、水道に関しましては、水道一元化も完成いたしました。ごみの問題についても西秋川流域の組合に加入させていただき、火葬場も加入させていただいて、大きな部分としては、ある程度の部分ができましたけれども、下水道に費やした建設事業に対して、これからいかに借金を返していくかということが一つの部分でございます。

それから、流域下水道については、これは今日は知事をお願いでございますけれども、少し長期的な部分で、時間がかかると思いますが、水道と同じように、できれば一元化をして、東京都自身が下水道の維持管理をしていただく。これが今、うちの予算の中でも、29年度予算の中でも約4億円ぐらいかかってしまいますので、小さな町の、62億円の予算の中では、そこから繰り出しをしていくという部分では、非常に厳しい部分でございますので、短時間ではなくて、この辺を今後の長期的な目標として掲げていただければありがたいなというふうに思います。

それから、今、うち自身が一番問題なのは、安全安心の問題であります。町全体がこの安全安心の部分としては、レッドあるいはイエローゾーンになっておりますので、ここで21の自治会の皆さんが避難できる場所を、改築をしていかなきゃならない。そのときに、普通の改築の費用ではとても住民の安全安心が守れないのではないかなというふうに思っておりますので、この防災対策に力を入れていきたいと。しかし、防災対策については非常にお金がほかのところの建物よりかかるので、もうその辺はご配慮いただければありが

たいなというふうに思っております。

それからあと、長い目で見ると、うちの町はどうして生きるかということでございますけれども、過去には林業の町、あるいは石灰石の町として、それなりの雇用があったんですけれども、その雇用がなくなってきておりますので、原点に戻って、昭和30年に1町2村が合併したときに、先輩たちは、この町は観光で生きるんだということで観光立町を標榜しております。したがって、観光立町に戻って観光を振興していこうと。

これ、もちろん今までもしてきましたけれども、なお一層、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、インバウンドも含めた観光の町に、首都東京の中で非常に近い部分がございますので、それに向かっていろんな部分をやっていきたいと。既に28年度予算の中ではJRが5駅ありますので、このWi-Fiを既に始めております。それから、40ある公衆トイレを、できれば5年間かけて日本一きれいなトイレにしたいという目標を掲げながら、一つ一つ今努力をしているという状況でございます。

そういう点では、首都東京の中であって、小河内ダムの建設当時つくった14のトンネルが、はとバスが実はすれ違いができません。こういう問題は長期的に、ぜひお願いをしたいなというふうに思っております。

それから、最近では奥多摩駅の乗降客、これが土・日を含めてでございますけれども、増えております。この6年ぐらい増えております。それはほとんど山に来るお客さんであります、中高年を含めた。そういうお客さんに来ていただきたいという部分がございますけれども、東京都全体の自然の国立公園、秩父多摩甲斐国立公園になっていますけれども、それ以外に東京都の自然公園になっておりますので、この自然公園の安全安心の工事を毎年少しずつでもしていただきたいなど。実際には、表に出てきてはおりませんけれども、年間何人かの方が亡くなっております。また、東京消防庁のヘリで吊って救助をしているという状況ですから、もう少しその辺が、奥多摩へ行っても安心だよということをこれからもやっていきたいなというふうに思っております。

特に、観光的な部分では、東京都で一番高い2,017メートルの雲取山、今年が2017年ですから、このイベントも東京都にご支援をいただきながら一緒にやっていきたい。それから、関東一の日原鍾乳洞という立派な鍾乳洞がありますので、これも生かしながら、観光立町として、さらに躍進をしていきたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、小さな町が生きていく、生活をしていく、あるいは安全で安心で、そこの町に住む人たちが生き生きと生きるためには、今回手当をいただきました市

町村総合交付金が私たちの唯一な大きな糧でございますので、今後とも、よろしくお願い申し上げます。今日は大変ありがとうございました。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。町長には町村会をおまとめいただくリーダーシップをふるっていただき、本当にありがとうございます。

今、具体的に幾つかの課題をお寄せいただきました。

交付金の充実でございますが、ご要望も、これはやはりしっかりお応えさせていただいているのかなど、このように思いますが、しっかりと、この市町村の財源補完としての役割を十分果たしていくことが重要であることは言うまでもございません。これからも地域の実情を踏まえた効果的な支援ができるように努めてまいりたいと、このように思います。

それから、具体的な課題で、下水道と、それから制度見直しについてのお話でしたが、これは局長のほうからお答えさせていただくことといたします。

それから、もう1点ですけれども、水道については、私のほうからは、山間部の簡易給水施設についてのご要望、町が直営されて、大変維持管理が苦慮されておられるということでございます。それぞれ規模がちっちゃいことと、それから山間部に点在をしているという、物理的には一体的な運用というのがなかなか困難というのが現実かと思えます。一方で、その技術協力の可能性などは少し考えていくということで、水道局としっかりお話しめいただければと思います。

それから、最初にフラッグツアーで奥多摩町のほうに伺いました。もう町民の方全員出ていらしたんじゃないかというほどグラウンドは大にぎわいでした。ぜひ、今、町長もおっしゃいました、奥多摩湖とか、これは氷川三本杉というんですか。それから鍾乳洞。鍾乳洞ってどこにあるんですか。

○山宮企画財政課長 日原です。

○都知事 日原。ずっとルートになっているんですか。

○奥多摩町長 ええ。奥多摩駅から、やっぱり出て、入って、出なきゃならないんですよ。

○都知事 でもそういう、何かこう、山奥にあるから何か雰囲気があるんだと思うんですけど。

○奥多摩町長 そうなんです。

○都知事 テーマパークじゃないからね。本当にしっかりPRのお手伝いできればと思

いますし、インバウンドの観光客を2020年までに2,500万人という大変野心的な数字を目標にさせていただいております。ですから、東京の魅力を、津々浦々の魅力をPRしていくということをきっちりやらないと、2,500万人に届かないと思いますし。

それから、そうですね、健康であるとか、まあ、健康維持のためなどで山に登るという方も随分、こう、お仕事を終えられたカップルとかが多いかと思います。安心安全の確保という観点からも、安心して登れる、足を鍛えるといったような、そういう名所になっていけばよろしいかと思います。

あと、観光についても幾つかご要望もございましたので、これからも総合的に考えさせていただきたいと思います。

○総務局長 下水道整備事業に伴います長期債、元利償還金等への総合交付金の充当という問題でございます。起債のあり方と財政規律確保というのは一体不可分の関係にございますので、現時点では起債の元利償還金は、運用上、充当対象とはしておりませんが、厳しい財政状況全体を見させていただきまして配慮させていただきたいと、このように思っております。

○中西副知事 下水道の事業の一元化のお話もありましたけども、これは都と市町村の非常に大きな役割分担にかかわる問題ですから、今日の時点では課題についてご指摘をいただいたということで受けとめさせていただきます。ありがとうございます。

○行政部長 河村町長、いかがでしょうか。

○奥多摩町長 下水道については問題提起をさせていただきました。多摩の格差という意味では、相当な部分、格差解消が図られておりますけれども、最終的に、この小さな町村の財政を圧迫する要因がほとんど除かれてきているんですね。水道の一元化、消防の一元化等々、非常に努力していただいて、そういう状況になってまいりました。しかし、これから先に行くと、下水道の問題というのが、いつかの時点で非常に大きな重荷になるのかなということがありますので、今日問題提起をさせていただきました。

それから、もう1点、問題提起だけをさせていただきますけれども、待機児童の問題は知事の英断で徐々にもう解消する、すばらしいことだと私は思っております。もう一方、高齢者の問題です。高齢者の問題に関しまして、今、何が起きているかという、23区では待機している高齢者が、一つの区で、聞くところによると600人いるというようなことが起きています。

私どもの町に今4つの特養があって、約440人ぐらい入れる特養がございますけれども、その中で、国が介護認定の1、2を減算するというような状況の中で、4と5しか入れない。そういう状況と、もう一つは、介護報酬の地域の区分とございますか、パーセンテージで、奥多摩町のところはそんなにお金がかからないだろう、3%でいいよ、都内は6%ね、ということによって、介護保険の職員の確保が困難になる。

それから4と5。1、2を抜くことによって、今度は逆に定員割れを始めたということがございます。これを何とかマッチングできないかなと。片方で困っている、もう一方では逆の部分で困っている、こういう部分を、東京都と区とうちの町が連携して、新しいモデルみたいなものできないかなと。その新しいモデルには、できれば住むところもきちっとやって、日本で初めてという職住接近の高齢者の施設というのができれば、少しずつ解決できるかなということで、そんなことを考えておりますので、これはまだ先の話のようで、実はそんなに先の話ではないんじゃないかなというふうに思いますので、政策的にとれる部分がございますら、私どもとしては、場所とございますか、就職先の確保という意味でも、真剣に取り組んでみたいというふうに思っておりますので、いろんな点からお考えをいただければありがたいなと。

今うちは働く場所が非常に困っております。働く場所には、やっぱり職住接近という何らかの施設とのかかわりがないと町に住んでいけないという部分がございますので、そんなことをお願いしたいなというふうに思います。

○行政部長 それでは、そろそろお時間でございます。最後に知事から一言お願いします。

○都知事 ありがとうございます。町長がおっしゃいました、そんな先の話ではないと、そのとおりだと思います。今、2020年のオリンピック・パラリンピックというのが一つの節目でありますけれども、そこに照準を合わせるよりは、むしろその後の2025年の人口がピークを迎える時期ということに照準を合わせていくと、いろんな準備も進められるのかなというふうに思っております。

あと、職住接近というのは、仕事をつくると、確保するということと、発想を全く変えて、テレワークなどを、もう、ぐっと引っ張ってくると。テレワークのセンターと。余りテレワークのセンターをつくっているとテレワークにならないだけけれども、この辺のところ、ややこしいかもしれませんが、いろんな発想を変えることによって、仕事が、つまり収入が確保できて、そして介護がしっかりと親御さんも受けられるというような形、もしくは介護士の方も安心して、そこで、奥多摩町で働けると。少し、こう、これまでの延

長線じゃない方法で、まあ、どういのが一番いいのか模索中ではありますけれども、考えていきたいというふうに思っております。

いつも本当に色々ご苦勞をかけて、ワサビもびりっときいて、本当にこれからも頑張っていたきたいと思っております。ありがとうございました。

○奥多摩町長 ありがとうございました。

○行政部長 それでは、以上をもちまして終了とさせていただきます。遠いところ、ありがとうございました。

(了)

『東村山市』

平成29年2月13日（月）

16時00分～16時26分

○行政部長 それでは、冒頭知事から一言ご挨拶お願いいたします。

○都知事 座ったままで失礼をいたします。今日はわざわざ都庁までお越しいただき、ありがとうございます。また、平素よりの都政に対しましてのご協力に改めて感謝申し上げます。

今回は、来年度予算の編成、そして交付金に関連しまして、今回、さらに都としっかり連携していただくという意味も込めまして、増額、充実をさせたところでございます。そこで、皆様方から、よりこの予算を有効に活用していただくという意味で、改めて東村山の現状、それから課題、そしてまたご要望、これについて伺わせていただきたく存じます。

都政の見える化ということでネット中継をさせていただきますので、ご承知おきいただきたいと存じます。

高度成長期から大きくニーズも変わってきていることかと存じます。その辺も踏まえまして、どうぞよろしくをお願いいたします。

○行政部長 それでは、渡部市長、ご発言をお願いいたします。

○東村山市長 改めまして、こんにちは。東村山市長の渡部尚でございます。本日は直接、また個別に知事に面談をさせていただいて。

○都知事 座ってください。

○東村山市長 ありがとうございます。

私どもの要望をお聞き取りいただけるということで、大変ありがたく、まず感謝を申し上げる次第でございます。これも、知事が掲げております都民ファースト、そして東京大改革の一環だろうというふうに受けとめさせていただいているところでございますので、本日は、今、知事からもお話しいただきました当市の実情や課題、それから、私どもが目指す今後の東村山のビジョン、そして、今行っている取り組み等についてご説明申し上げまして、東京都のお力添えをお願いをさせていただきたいというふうに思っております。

事前に資料をお配りしておりますが、一応フリップもつくらせていただいたので、申しわけございません、冊子も使わせていただいて、今日は、東村山市の行財政支援に関する要望ということで、大きくは4点でございます。

1つは、市町村総合交付金の拡充と地域特性の配慮をお願いしたい。2点目は、都道226号線久米川第1号踏切付近の拡幅についてお願いをさせていただきたいと思います。それから3点目としては、野火止用水の整備、保全への財政支援、そして4点目は、先ほどピンバッジをお渡しさせていただきましたが、多磨全生園将来構想の実現に向けた連携強化ということで、以上、今日は4つのお願いでございます。かつて、ちあきなおみの有名な曲がございましたけれども、今日は東村山市の4つのお願いということで、ぜひお聞き取りいただければと思っております。

まず、要望させていただく前に、当市の概要、特に主な東京都の施設について説明をさせていただきます。

ご案内のとおり、東村山市は東京都の多摩地域北西部に位置しておりまして、西武新宿線がこういう形で走っておりまして、あと西武池袋線がこういう形で隣の所沢に抜ける。あと地下ですが、武蔵野線が走っている。新宿や池袋から大体電車で30分から40分ぐらいの交通利便性の高いまちでございます。その一方で、東京都のほうで緑地保全をしていただきましたトトロのふるさと、八国山緑地や狭山公園、そして都立東村山中央公園など、緑の豊かなまちでございます。

ただ、一方で、国や東京都の施設が非常に多いというのが当市の大きな特徴でございます。まず、赤丸で示しているのが、いわゆる都営住宅でありまして、市内に37カ所、全部で5,686戸、都営住宅がございます。多摩地域では、八王子市さん、町田市さんに次いで戸数としては3番目に当市に集中しているという状況であります。八王子市さん、町田市さんは人口50万、40万規模でございますが、当市は人口15万で、世帯数としては約70,000世帯、そのうちの5,686世帯ですので、全世帯の約8%が都営住宅のお宅という状況で、多摩地域には約9万戸の都営住宅があるんですけども、東村山市に全体の6%強集中をしているというような状況で、非常に都営住宅が多いまち、このことが当市の行財政に大きな色々な影響を及ぼしているところがございます。

そのほか、東村山浄水場。これは、東村山市に浄水場ができたので、淀橋浄水場が廃止になって都庁が建ったということで、そういう水を供給する施設、それから、こちらはお隣の東大和市さんになりますけれども、村山貯水池、多摩湖がある。そういう意味では水のまちでもあるということ。

それから、萩山実務学校であるとか、東村山福祉園、それから、かつて養育院の東村山分室と言われた東村山ナーシングホームなどの福祉施設が非常に点在、集中をしていると



ころでございます。

そのほか、国のハンセン病の療養施設であります多磨全生園、それから民間ですけれども、かつて東洋一のサナトリウムと言われた保生園病院、現在の新山手病院など、数多くの医療機関がございまして、首都東京の発展を、水、それから、住まい、福祉、医療の面から支えてきた、そういうまちでございます。

そういう意味で、障害者、病気をお持ちの方、高齢者といった方を数多く受け入れてきた人に優しいまちであるというふうに考えているところでございますが、こうした都市構造から、極めて財政構造が脆弱でございまして、都市基盤等に遅れがあるというところが課題であり、現在、東村山市も、平成23年をピークに人口減少局面に入っているという状況でございます。

そして、その中で第一にお願いをしたいというのが市町村総合交付金の、まず拡充と、それから、東村山市の地域特性へのより充実したご配慮をお願いしたいというふうに考えております。

先ほど申し上げたような都市構造で、特に当市で課題になっているのが高い生活保護率ということで、生活保護の受給世帯が22.8パーミル、1,000世帯に22.8件あるという計算でございまして、26市中4位、約3,400人ほどの方が生活保護を受給されておられます。それから、高齢化の進展が極めて高いということで、高齢人口が25.5%、26市中6位というようなことであります。

先ほど申し上げたように、国や東京都の施設は多いんですけれども、逆に、民間の税を生んでいただけるような企業が非常に少ないということで、低い法人税収で、市民1人当たりの税収額は26市中23位と、この辺が非常に財政が脆弱なところであります。そのことが起因して都市基盤整備が非常に遅れてございます。残念ながら、都市計画道路の整備率が約18%ということで、26市中26位という状況でございます。

こうした中で、当市では、東村山市の良さを生かしまして、「人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山」という将来ビジョンを掲げて、市民参加、市民協働のもとに積極的にまちづくりを進めております。単に寝に帰るだけのベッドダウンから、このまちで働き、学び、憩い、子育てする、さまざまな人生の局面をより豊かに送っていただけるまちに大きく変換をしていきたい。そういう意味では、東村山も今、知事に倣って言えば、東村山大改革を進めている真っ最中でございます。

その中で大きな柱になるのは、子育て、健康、産業振興、都市基盤整備ということでご

ざいまして、都市基盤整備については、今、東村山駅周辺の連続立体交差事業を東京都が推進をしていただいて、改めて感謝申し上げる次第でございますが、それに合わせて、我々も道路整備等を今、急ピッチに進めさせていただいております。

それから、産業振興は、これは国の地方創生の流れに乗りまして、企業誘致、起業・創業支援、販路拡大ということなんですが、近年、地方の銀行や地方の中小企業が首都圏進出の足がかりとして当市を選ぶケースが出てきております。というのは、先ほど申し上げたように、ちょっと地価が安い割に利便性が高いということがあるので、これを積極的にやろうということで、東村山「TOKYOポータル」と名づけて、地方の中小企業の首都圏進出を支援することで企業誘致を図っていききたい。それからあと、若者や女性の起業・創業支援をこれから積極的に推進していききたい。それから、販路拡大事業。市内の既存の中小企業にハンズオンの形で経営支援をすることで販路拡大。それから、交流ビジネス。交流人口を増やそうということで、今たまたま東村山市にも酒蔵がございまして、そこをタイアップして、酒蔵から始まる販路拡大、交流ビジネス事業というのをやっているんですが、その第2弾、第3弾をこれからも進めて、少しでも市内の産業や経済の活性化を図っていききたいと考えております。

それから、子育て、健康については、当然、待機児解消ということが当市でも大きなテーマでありまして、かつて、ピーク時は222人待機児がおりましたが、一昨年の4月には32人まで削減することができました。ただ、去年の4月に76人までまた戻ってしまっているんで、また東京都のお力をいただきながら積極的に待機児童解消を図ったり、それから、東京都では多分まだほかにはないと思いますが、大型の子育て広場「ころころの森」というのを、白梅大学と市内のNPOと協働してやっております、ここは市外からも大勢お子さん連れの親子が来るような状況でございます。

それからあと、生活困窮者支援ということで、高い生活保護率を何とかせにゃいかんということで、今、国の生活困窮者支援事業で生活困窮者の経済的な自立支援を一生懸命やらせていただいて、リーマンショック以降毎年100世帯ずつのペースで生活保護受給世帯は増えていたんですが、ようやくここで抑制というか、自立に向けた取り組みが功を奏しまして、昨年の12月は、一昨年の12月に比べると、初めて受給者が減ったという状況で、非常に我々としてもそこは頑張らせていただいております。

それから、健康寿命の延伸ということで、医療費や介護給付費を何とか抑えていこう、そんな取り組みをしているわけですが、それにつけても非常に財政基盤が脆弱で、一般財

源が乏しい当市でありますので、ぜひ東京都の総合交付金を、本当に今回500億まで積んでいただいたことに改めて感謝をしつつ、さらなる充実をお願いすると、こうした我々が抱えているような課題に、ぜひ弾力的、優先的に対応いただけるようお願いをしたい。特に、こうした高い生活保護率があるところで、なおかつ生活困窮支援を頑張って世帯数を減らしているというようなところ、それから、総合交付金の場合、なかなかソフト事業の産業振興等に充てにくいところがあるんですが、今後こういったところにも少し目を向けていただいて充てていただくと、非常に我々もこれから市として自立性を高めて自走していけるようになるのではないかと。こうした努力をぜひお酌み取りいただき、今後、東村山も、住みたいまち、住み続けたいまちとして生き残れるように、ご支援をぜひお願いを申し上げたいというふうに思います。

あとは個別具体の話になります。

1つは都道226号線。西武新宿線の久米川駅すぐ北側の道路でございます。現在東村山市では、この北口の広場整備事業をやらせていただいて、この都道についても拡幅、歩道設置を東京都の受託事業としてやらせていただいているところでございます。ここがそろそろ終わりますと、踏切の北口側は、これだけ拡幅されて歩道が設置されるわけですが、逆にこちらの南口のほうはそのままということで、踏切のところでどん突きみたいな形で滞留して、非常に行き来するのに危険な状態になっております。こちらの踏切については、平成16年に東京都が策定した踏切対策基本方針で2025年までに対策をするとされた重点踏切に位置づけられておりますことから、ぜひ事故が起きないうちに早期にお願いしたい。東村山駅と並んでこの久米川駅は東村山市の中心核でございますので、何とかここを早期に改善をお願いしたいと思っております。

次は、野火止用水の整備、保全の財政支援をぜひお願いしたい。ご案内かと思いますが、野火止用水は、かつて知恵伊豆と言われました松平信綱が開削した歴史的な用水でございます。今は立川にあります小平監視所から埼玉県志木市の新河岸川まで流れる用水路で、東京都の流域としては9.6キロございますが、そのうち東村山市域を5.8キロ流れております。東京都で流れているうちの60%が東村山ということでございます。

こちらについては、今、申し上げたような経過がありますので、昭和49年だったと思いますが、東京都において野火止用水歴史環境保全地域に指定をされております。この指定を受けてしまいますと、保全地域における開発行為の規制、それから伐採等の規制が非常に厳しくて、何とか歴史遺産ですから残さなければならぬんですが、自然護岸のまん

まで保管しなさいとか、木はなかなか切ることを許されないので、今、老木化したり高木化して、約1,500本ぐらいある木のうち約半分近くが樹勢が悪くて近隣とトラブルになっている状況でございます。これらを管理していくために、市としても頑張っているんですけども、統一的な整備、保全によるコスト高がどうしてもございますので、今後、適正にこうした都民の歴史遺産をきちんと残していくためには、なかなか市だけでは厳しいところがありますので、ぜひ東京都のお力添えをいただければというふうに思っております。

そして、お願いの最後でございます。これは昨年の東京都市町村協議会でも直接お願いさせていただきましたが、当市にはハンセン病の国立療養所であります多磨全生園がございます。多磨全生園の将来構想の実現に向けた連携強化を何とぞお願い申し上げたいと思っております。

多磨全生園の将来構想については、生活環境の改善、人権の森の構想、それから保育園の設置の3つが入所者自治会のほうから掲げられておまして、保育園につきましては平成24年に既に開園がなされております。こちらの医療・介護・看護の確保、生活環境の改善、これは国の責任において現在進められているわけですが、将来ここがどうなるのかということで、何とかここを人権の森として残してほしいという運動をさせていただいております。

先ほどお渡しさせていただいたピンバッジが人権の森のシンボルマークで、森の中に人がいるという図形でございますが、こうしたことで、今、市として力を入れているのが、やはり多くの人に知っていただくということで、啓発活動をやっています。ただ、ちっちゃい市でございますので、なかなか啓発の広がりが弱い。そこはやはり東京都に何とか先頭に立って啓発をぜひお願いしたいというふうに考えております。一昨年だったと思いますが、ヒューマンライツ・フェスタでも取り上げていただいて、やらせていただいたわけですが、何とかここも少し力を入れてほしいというふうに願っております。

そのほか、構想実現に向けて、全国にハンセン病の療養施設というのは12自治体13カ所ございます。それぞれで、国とその所在する都県、それから地元の市ないし町と入所者自治会、4者で協議の場をつくって構想を実現していこうということが申し合わせをされておりまして、一部の園では、既に国も交えて、県も入った、こういう組織が立ち上がって協議がされておりますが、今のところまだ多磨全生園の場合はここが立ち上がっておりませんので、ぜひ東京都にもお入りいただいて、協議の場を設定させていただければあ

りがたいと、そのように考えております。

以上、長々と申し上げさせていただきましたが、大変厳しいまちでございますが、一生懸命頑張らせていただいておりますので、これからも、知事が進めておられる都民ファーストでつくる新しい東京の実現に向けて、私どもも一翼を担わせていただきたいと思いますので、何とぞ知事のご英断をよろしくお願い申し上げて、私からのお願い、説明にかえさせていただきます。

○行政部長 ありがとうございます。それでは、知事、お願いいたします。

○都知事 詳細なご説明ありがとうございます。幾つかポイントがあったかと思しますので、私のほうからまずお答えさせていただき、これからの市政運営に生かしていただきたいと存じます。

まず、総合交付金による財政支援でございますけれども、これについては、今回、来年度、拡充、充実もさせていただいて、そして幾つか、都営住宅のまちなんだなということがよくわかりました。一方で、待機児童の数が、現在はちょっと増えたということですが、幾つか、いずれの市政でも直面しておられるさまざまな課題があるかと思えます。都市インフラの整備や福祉の充実といったような幅広いご要望を承ったわけで、しっかりとメリハリをつけて対応させていただきたいと思えます。

それから、具体的にご要望で、都道の拡幅でございますが、緊急対策踏切にも指定をされているということから、市や鉄道会社と検討を進めているのは言うまでもございませんが、しっかり連携しながら事業を進めていきたいと考えております。

待機児童の問題についても、今お話のあったとおりでございます。

それから、野火止用水というのは、貴重な歴史を守るときは色々と制約も出てくるので、そこら辺の課題かと思えますけれども、地元自治体と連携して、この適切な保全について連携をさせていただきたいと思えます。

それから、バッジありがとうございます。人権の森ということでアピールをされる部分があるかということは、これまでの歴史的な流れからも理解をいたします。多磨全生園については、国立の施設でございますので、今後、国の対応などについて情報収集に努めてまいりますので、こちらで得ました情報については、またお伝えさせていただきます。そして、ハンセン病患者さんや回復者に対しましての差別や偏見などがないように、引き続き市と連携させていただいて、普及啓発に努めさせていただきます。

こういったところで、今日は詳しくご説明を賜りました。

ちなみに、生活保護を受けておられる方々が少し減ったということで、いい傾向かと思えますけど、大体一口で、どういう方々か。つまり私が伺いたいのは、高齢男子ひとり暮らしというのが最近増えている傾向があるんですが、御市のほうではいかがでしょうか。

○東村山市長 先ほど申し上げたように、リーマンショック以降、いわゆる、その他世帯という、高齢者でもなく、障害もお持ちでない方が一時、非常に増えてきまして、雇用環境も大分改善されたということもありますので、そういった方はなんとかできるだけ早い時期に経済的、社会的に自立をしていただくように鋭意支援しているところでございます。高齢で、お体に色々障害があつて、病気をお持ちだと、なかなかやっぱり難しいところもあるので、そこはまた色々東京都のご指示をいただきながら、どう自立を促していくのか検討させていただければと。

○行政部長 ありがとうございます。恐縮でございます。お時間でございます。最後に知事、一言。

○都知事 ありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。

○行政部長 ありがとうございます。

(了)

『昭島市』

平成29年2月13日（月）

16時27分～16時41分

○行政部長 最初に知事からご挨拶申し上げます。

○都知事 座ったままで失礼いたします。今日はわざわざ都庁までお越しいただきまして、ありがとうございます。

都政の見える化ということで、本日の様子もインターネット中継をさせていただいておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

これから来年度予算の審議にも入るわけでございますけれども、昭島の今、抱えておられる現状について、そして課題、それからご要望を直接伺いをしたいと考えております。地下水の100%の水道提供など、それぞれユニークな活動をされておられますので、そういったことについても伺わせていただければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、臼井市長、よろしくお願いいたします。

○昭島市長 こんにちは。このような機会をいただきまして、小池知事をはじめとする理事者の皆様方、本当にありがとうございます。

では、私のほうからご説明させていただきたいと思えます。

パネルを出していただければ見やすいかと思えますけれども、今JRの東中神駅というところが出ておりますけれども、これは青梅線の東中神駅でございまして、立川駅がございまして、立川の後が西立川駅、で、東中神駅。2つ目の、立川駅までアクセスで大体5分ぐらいというところでございます。今、JR東中神駅の自由通路等整備事業を、橋上駅舎化を含め実施しているところでございまして、全体的なこの図は、昭和記念公園がございまして、国案を昭島と立川が受け入れて昭和記念公園。ここに残ったのが立川基地跡地というところでございまして、今、「国」と書いてあるところは、「法務省」と書いてありますけれども、そこは法務省、今は国際法務総合センターというところで、もうそろそろ第一弾の整備が終わろうとしているところでございます。

その下の「国利用」と書いてあったんですけれども、そこは公務員住宅という予定だったんですけれども、仕分けでアウトになっちゃいまして、がくっとしているんですけれども、そうなったところです。この下の「民間利用」というところの中で、民間、財務省、そし

てURさんと開発するということをごさいます、うちとしては、そこに道路が入っていますから、その下の部分は特別養護老人ホーム、そしてまた認定こども園、そしてまた、その横に昭島市の学校給食共同調理場をつくらうということにさせていただいて、この隣は民間デベロッパーが買うのかなというところで。

今までの給食調理場はあるんですけども、なかなか、建て替えというところになって、土地を求めると建物が建つので約30億かかってしまうということで、国からも都からもなかなか補助がないものですから、自前でやっていかなくちやいけないというところの中で、食育というのは子供たちにとって基本中の基本ですから、そこら辺の食育の問題についてご支援いただければありがたいなというふうな形で思っているところをごさいます。

そして、今①ということで、大体そのような形の中で。

あともう一つ、都利用の調節池とあると思うんですけども、そこは残堀川というところがありまして、ふだんはちょろちょろの川なんですけど、去年の7月、8月の集中豪雨で調節池が3分の2埋まってしまうような形の中で、今、都側と調整させていただくのは、そこにはふだん、グラウンドと、テニスコートと、野球場と、子供たちに人気のスケートボード場をつくらうということで、若い人たちにスケートボードというのは人気があるものですから、そういうふうな形をつくらうと思っているんですけども、なかなか、調整池の中での集中豪雨等々が心配なものですから。ちょっと、今年1年見させていただいて、そしてまた都と調整させていただいて、都からのご支援をいただきながら、一緒に考えながら公園等をつくっていこう、そういうふうな思いでありますので、ぜひご理解いただければありがたいというふうに思っております。

2番目としまして、伝統文化継承環境整備ということで、奥多摩街道の都道29号線に拝島というところがあるんですけども、拝島の日吉神社の例大祭というのがございまして、昨年で250年ということで、屋台が3台ある中で、今まで、大正時代には電柱がなかったものですから、人形が通れたんですけども、大正時代から電線化があって、横に横断する形の中で人形が入れなくなってしまったということで、それを市としても、都からの補助をいただきながら、また市民の皆さんから、地元の皆さんから寄附をいただいて、人形の立ち上げを昨年3台、時期は違うんですけども、徐々に立てさせていただいて、いよいよ、本来だと無電柱化させていただきたいんですけども、今、寄附された方も高齢でするので、今年度においては市として予算を、高架型で、ちょっと高くして、人形が通れるような形の中でしていこうという予算をつけたんですけども、いずれにしても、その部分



についても総合交付金をいただいていますし、また、今後については、小池知事さんは議員の時代から無電柱化というのは、ずっと言われていたことですので、ぜひこういう、昔からの部分の中での、そうした伝統、歴史を守る上で、無電柱化というのはいいんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひ、高架型を最初にやりますけども、将来無電柱化していただければありがたいなというところで、お願いしておきます。

3番目につきましては、東京都から移管されたところの中で、昭島には、さっきの東中神駅南口のところに東京都立多摩スポーツ会館という施設があったんですね。多摩の全体的なスポーツの中心になる会館がございまして、しかしながら、もうこれは東京都から移管をしてということで、平成3年に、東京都の行財政改革大綱により、一定の地域で利用される小規模体育施設は地元市区町村への移管方針が打ち出されまして、そして、平成16年の4月に東京都から昭島市に移管され、その後、都立多摩スポーツ会館から昭島市の拠点というふうな形で、昭島市でやっていただきたいというふうになりました。

しかしながら、移管されて以来、東京都において大規模改修がされましたけれども、建築後40年以上たっていますので、その施設は今、フットサルができるようなコートがあるし、温水プールがある。柔道、剣道、弓道、オリンピックのクライミングウォールもありますし、多くのスポーツができる施設なんですけども、老朽化が激しいということで、これを今リニューアルすると、大規模な補修工事をして25億ぐらいかかってしまう。全体的な建て替えをすると100億かかってしまうというような形になると、なかなか一市町村ではできないということで、先般の立川市を中心にした広域連携サミットの中でも、全体の多摩の市町村が中心となってスポーツの拠点となるようにできないかという話もしましたし、それには東京都のご尽力を賜ってやらなくちゃいけないということで、今日は挙げさせていただいたところがございます。

あとについては、国民健康保険につきましては、金曜日からのYouTubeを見させていただいて、皆さん、国民健康保険の審議会が答申された30年から都が運営していくということの中での話は聞かれたと思いますので、私もそのとおりだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

あとは水については、昭島は地下水100%で、深層水を70メートルより下のところからくみ上げて、大体30年前に降った雨が浸透したものでございますので、大変市民の皆さんには喜ばれているというところがございます。ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

○行政部長 ありがとうございます。それでは、知事、発言をお願いいたします。

○都知事 市の現状についてのご説明ありがとうございます。幾つか具体的なご要望がございました。

まず、今回の交付金関係といたしまして、個別の事業が幾つか、残堀川であるとか、学校給食施設の整備、それから電線ですね、それぞれご要望承りました。そして、承った上で、市民の安心安全にかかわります事業ですし、これまでの長年の歴史的なイベントが電線でひっかかるなんていうこと、それについては、最近は技術革新が行われていまして、今から高架化をするよりは、技術的にまた色々こちらとしてもバックアップさせていただきますので、どうせならと言ったら乱暴な言い方ですが、やはり地中化されるほうがよろしいかと思います。そういったことも含めて、この総合交付金の活用を含めて効果的な支援ができるように対応させていただきます。

それからあと、立川基地ですね。昭島地区の開発でございますけど、これも今の交付金の話のところに入りますので、同じお答えといたしましょうか、対応をとらせていただきます。

それから、スポーツですけれども、事前キャンプ地への誘致などもお話を承っております。こういったこともしっかり連携をとらせていただいて、PRをさせていただこうと思います。建て替え等々については、これまた、どこまで都としてできるのか、検討させていただこうと思います。

それから、国民健康保険の広域化については、まさしく皆様方のところと現場のほうでお話しさせていただいております。激変緩和措置などについても、その中で検討させていただきたいと、こう考えております。

水が豊富ということで、ぜひ水の都としてこれからも頑張りたいと存じます。  
ありがとうございます。

○行政部長 臼井市長、何かございましたら。

○昭島市長 大変ありがとうございます。私も市長になりたてで、4カ月でございますけれども、しっかりと、21年間、市議会議員をさせていただきましたので、その前は職員だったものですから、経験を生かしながら、本当に、住んでみたい、住み続けたい昭島、そしてここで生業をしたい、仕事をしてみたいというような昭島市づくりをさせていただきたいと思いますので、ぜひぜひ東京都の、小池知事をはじめとする皆様方のご支援、ご協力を切にお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○行政部長 せっかくの機会ですが、よろしいですか。もうちょっと時間がありますので。

○昭島市長 かつて僕、三議連のほうで予算要望をずっとやっていた、政調会長を8年間させていただいていたんですけども、本当にこういう機会をつくっていただいた小池知事はすばらしいなというふうに感謝申し上げますし、こういうところの中で、お互いの、知事と東京都と市町村が連携を取るということは一番大事なことだと思いますし、総合交付金は今年500億でございましたけども、しっかり三多摩格差を埋めていただいて、格差になっていますので、ぜひ今後とも、総合交付金は使い勝手がいいということは、三多摩市町村の首長をはじめとする三多摩市民は全部願っていますので、総合交付金、やはり、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。今後ともお願ひしたいと思います。

○行政部長 では、そろそろお時間でございます。知事、最後にお願ひします。

○都知事 ありがとうございます。これからもさらにまちを磨いていっていただきたいと存じます。頑張ってください。ありがとうございます。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。お忙しいところ、ありがとうございました。

(了)

『武蔵野市』

平成29年2月13日（月）

16時45分～17時01分

○行政部長 それでは、冒頭、知事からご挨拶をさせていただきます。

○都知事 今日は、お忙しいところ、都庁までご足労おかけいたしました。ご出席ありがとうございます。また、日ごろより都政運営にさまざまなご協力をいただいておりますことを改めて御礼を申し上げます。

これから来年度の予算案の審議にも入ります。それから、新年度を前にいたしまして、武蔵野市の現状、そしてまた課題、そしてご要望等々を伺わせていただきまして、今回、交付金のほうも充実をさせていただいております。より良い市政への反映ということで、この時間を活用させていただきたいと考えております。

見える化という都政への私の姿勢で、今回もインターネットで中継しておりますので、市のPRなどもよろしかったらどうぞ。では、どうぞお始めください。

○行政部長 それでは、市長、ご発言をお願いいたします。

○武蔵野市長 武蔵野市長の邑上でございます。本日は、このような時間をいただきまして、ありがとうございます。大変すばらしい企画ではないかなというふうに思っています。日ごろからなかなか都知事さんと会う機会がないということと、1対1で話をするということが今までなかったという記憶もございますので、今回このような機会をいただいたこと、大変感謝をしたいと思っています。

時間が少しでございますので、5つの点に絞って、今日はお話をさせていただきたいと思っています。

まず1点目なのですが、私どもの水道についてでございます。実は私どもの水道というのは独自の水道事業を行っておりまして、東京都からも2割ほど受水をさせていただいておりますけれども、基本的には自前で運営をしております。しかしながら、赤いところが、浄水場は2つあるのですが、市域がおおむね2つに分かれて、それぞれの水道を供給しているのですが、なかなか周辺からの水道管の連絡がないということもあって、リスク管理からいうと非常に極めて厳しい状況にございます。

赤いラインが本管でございますが、本管にトラブルがあったときには、周辺からの供給がなかなかできないということもあって、何とか東京都との水道事業の一元化をできない

ものだろうかということで、この間お願いをしてまいりました。事務局レベルではかなりいろんなお話をさせていただいておりますので、基本的にはぜひ短期間のうちに都営水道への参入をぜひお願いしたいというふうに思っています。今の課題は、財政調整金と申しまして、一定程度の負担も必要だというお話をいただいておりますが、そのような負担がなかなか額的には厳しいものですから、それらも含めて、これから色々ご調整をさせていただければありがたいということでございます。

それから2点目でございますが、これは外環の話でございます。私どもの市域のちょうど東側、赤いダブルの線が外環の区間でございますが、この次の日曜日に外環本線のシールドマシンがスタートするというので、私どもとしましては、本線の地下部分については、安全に、環境に配慮した形でぜひ工事をしていただければというふうに思っておりますが、実はそもそも昭和41年にこのような形で高架化の事業があったものを、高架化はなかなか難しいということで、都市計画の変更によりまして、大深度地下という形で変更いただいた経緯がございます。

しかし、そのときに、外環のその2というところでございますが、東京都の道路の計画が地上部に残ったままということになりました。見ていただければわかるのですが、ちょうど計画のところが吉祥寺の最も良い、緑豊かな住宅地を分断するようなところでございまして、地下に設けられた外環本線の機能は理解するところなのですが、地上部に残された外環のその2については、なかなか厳しいのではないかなというふうに思っております。平成21年から、この外環の2について必要性の有無から意見交換をしましょうということで、意見交換会をさせていただいているところでございますが、数年たちましても、その結論に至っていないという状況でございます。私どもとしましては、この必要性がいかかなものかなということをいまだに疑問を持っておりますが、ぜひ知事におかれましては、現地も見ていただいて、その必要性について慎重にご検討いただければというふうに思っています。

それから、ちょっとパネルのほうを先に説明させていただきます。項目としましては、最後に要望を挙げた項目でございますが、電線の地中化でございます。私も小池知事と全く同じでございまして、電線の地中化をもっともっと推進すべきだという考えを持っております。市長に就任して12年になりますけども、当初には、全市を電線地中化できないものかどうかということを実は職員に投げかけたのですが、市長、それはいかにもお金がかかりますよ、予算の何年か分かっちゃいますよということで、それは断念しましたけ

ども、しかし、重要な路線から順次電線の地中化をしていこうということで、結果として今、都道も含まれていますけれども、黒塗りの線が電線の地中化が終わったところがございます。今予定しておりますのが、赤い路線がこれから、来年度から行っていくという路線でございます。ブルーの路線は、その赤い路線が済んでからということで考えておりますが、これは、財政事情からこの程度にせざるを得ないかなということでございますが、東京都が今、電線の地中化ということで、すごく前向きないろんなことをいただいているのですが、ぜひそのような制度も使ってもっと電線の地中化を進めていきたいというふうに思っています。

若干、東京都の事業につきましては、私どもの道路が、その事業にちょっと乗れないような部分もございまして、例えば、市役所の前の中央通りというところが、歩道の幅員が2.5メートルあるので、それは国でいう対象物件になるのですが、実はそこには桜がいっぱい植わっているものですから、通常の間交省の言う基準では地中化ができない状況なんです。そうなりますと、東京都がこれから進められます新しい簡易型の仕組みであれば、これは何とかこの道路に活用できるんじゃないかというふうに思いますので、東京都の補助制度の対象の枠組みですね、基準をぜひ緩和いただければありがたいというふうに思っています。

それから、ボードのほうにはございませんが、あと2点ほどお話をしたいのが、1つは待機児対策ということで、この間極めて前向きに取り組んでいただいていることに感謝をしたいというふうに思っております。前回も待機児対策会議の中でお話を差し上げましたけれども、オール東京都の視点でぜひ、保育士さん等の補助に対しては前向きにこれからお願いしたいというふうに思っております。

またあわせて、我々の自治体は、地図で見ていただければわかるのですが、100%市街化ということで、なかなか保育園用地を確保するのが難しいという状況にございますので、前回お願いをしましたように、東京都の用地ということで、ぜひ前向きな提供をということでお話をしましたところ、幾つかの物件を今紹介いただいておりますので、それにつきまして、なるべく実現化を目指していきたいというふうに思っております。

それから、最後でございますが、これは多摩全体にかかわる話でございますけれども、義務教育就学児医療費助成制度というのがございます。これは東京都の応援をいただいているものでございますけれども、23区は所得制限なしに、中学生まで無料化になっております。私どもも何とか、23区に隣接する自治体でございますので、23区並みという

ことで頑張って所得制限なしということにしておりますが、多摩の多くはそれができずにおるところでございますので、ごくわずかの市しか所得制限を撤廃した助成制度ができてございませんので、ぜひこれもオール東京という視点で、多摩の自治体が等しくそのような支援ができるよう支援をいただければなというふうに思っています。

以上でございます。よろしくどうぞお願いいたします。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 実情、現状についてご報告いただきました。幾つかポイントがあったかと思えますけれども、まず、逆からいきますと、一番最後にいただいた件ですが、義務教育の就学児医療費助成制度、これはおっしゃるとおり、武蔵野市のみならず、色々各地での共有の課題だと思いますが、子育てを支援する福祉施策の一環として実施をしているものでございます。これについてもまた検討させていただきます。

それから、水道の件でございますけれども、一元化については、既に御市のほうでも浄水場の更新経費約130億円というふうに試算をされた経緯があると伺っております。老朽化も進んでいるということから、都がそれを引き受けると、現時点でも大体100億はかかるだろうということございまして、都営水道のお客様にとって新たな負担を生じさせるということから、これが原則でございます。引き続き水道局のほうと話し合っていたきたいということでございます。

それから、外環の地上部街路でありますけれども、これも地元のご意見を伺いながら丁寧に対応させていただきます。今度シールドの現場のほうに伺わせていただきます。今度行く場所は違うのかな、世田谷のほうですね。今のご要望といたしまししょうか、もう地下にできるんだからというお話だと思いますけれど、検討させていただきたいと存じます。

それから、待機児童対策でございますけれども、保育サービスの確保として、私は昨年の補正予算、今回も新年度予算の予算案のほうにもかなりこの意思を盛り込んだ予算案にさせていただいております。武蔵野市のほうでも活用していただければと、このように思っております。保育用地の物件は既にご紹介をさせていただいております。そのほか保育士さん不足等々についても、新年度予算のほうで何とか手当ををしたところでございますが、間に合わないのが現状ということはおもう既に聞いているところですが、でも、やはり、働く女性にとっても、また男性にとっても、子育てをしながら働くという当たり前のことができるような、そんな東京にしていきたいと思っておりますので、よく連携させていただこうと思います。

それから、地中化ですね。電線類の地中化の話でございますけれども、今お話がございました歩道の幅員でありますけれども、これは昨年、無電柱化促進法が成立をいたしまして、ここで大幅に技術的、制度的に見直しをすることとなっております。その意味で、今のようなご懸念については、もうこの点は問題ないかというふうに思います。ぜひ無電柱化を進めていっていただいて、そして、これまではいろんな制限がございました。おっしゃるように、2.5メートルとか、それから深さですけれども、これも技術的に地表から25センチでオーケーとか、これまで言われていたのとかかなり制度的にも技術的にも緩和されてきておりますので、それをうまく活用していただいて、武蔵野市が、先ほどの赤い線だけでなく、より多くのところに無電柱化の計画を広げていただきますよう。技術的に急に変わるものではございませんので、若干時間的なラグは出てくるかと思っておりますけれども、無電柱化の方向に進めていくという強い決意のもとに連携させていただこう、このように考えております。

○行政部長 市長、何か補足されることがあれば。

○武蔵野市長 じゃあ、幾つかちょっと補足をさせてください。

水道の一元化は本当に喫緊の課題だというふうに思っておりますので、経費の件も大きいのですが、それ以上にリスク管理上必要な事業だと思っておりますので、ぜひ前向きにご調整のほど、協議のほどさせていただきたいと思っております。

それから外環は、やはり一度来ていただくとすごくわかりやすいのかなと思っておりますので、今度シールドマシンの、あれは世田谷のほうで70メートルぐらいの深度で発進するやつでございますが、私どものところでは全く上部は何もない状況の住宅地でございますので、そういうところも一回見ていただければありがたいと思っております。

それから、電線類の地中化については、私どもの自治体が今10%ぐらいですかね、地中化率は。これは、多摩では稲城市さんに次いで多分2番目の割合なんですね。23区ですと実はもっと高くて、倍ぐらいの整備率かと思っております。なかなかそれも多摩との格差が開いちゃったんじゃないかなというふうに思っておりますので、今指定されているのが、恐らく区部を中心としたエリアを中心に先行して優先的にやろうということでございますが、それに限らず、各駅前を中心に、もっと多摩の魅力を引き出すためにも地中化は必要じゃないかというふうに思っておりますので、ぜひ多摩のほうもさまざまな補助をいただけたらというふうに思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 ありがとうございます。それでは、そろそろお時間でございます。知事、



最後に一言お願いいたします。

○都知事 今後とも、まちの変遷に伴ってニーズも変わってくるかと思えます。現場の声、今後ともお寄せくださるようお願い申し上げます。今日はありがとうございました。

○武蔵野市長 ありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。

(了)

『清瀬市』

平成29年2月13日（月）

17時01分～17時14分

○行政部長 それでは、冒頭、知事から一言ご挨拶申し上げます。

○都知事 小池でございます。お忙しいところ都庁までご足労をおかけいたしまして恐縮でございます。

日ごろから清瀬市の皆様方にも都政運営にご協力いただいておりますこと、改めて御礼申し上げます。その上で、これから予算案の審議が都議会のほうでも行われ、新年度の予算案については、既に発表させていただいて、交付金につきましては、今回、充実もさせていただいたところがございます。

時代も変わり、多摩地域も高度成長の時代から、人口増加の時代から、今、大きく変わろうとしているかと思っておりますけれども、市の現状について、そしてまた、将来の課題について、直接お伺いをしようということで、本日お越しいただいたところがございます。

なお、都政の見える化ということに努めておりまして、本日のこのやりとりについてはネットで情報公開させていただいておりますので、ご承知おきいただければと存じます。

それでは、早速お願いいたします。

○行政部長 それでは、市長、ご発言をお願いいたします。

○清瀬市長 まず、都知事に御礼申し上げます。

今回の資源発掘型実証プログラム事業、清瀬の郷土館での、結核歴史展に、600万いただいたことで、JTBにその600万は行っているんですけども、そのことによって、清瀬市民の皆さんの、清瀬の世界医療文化遺産に向けての共感度を大変に上げていただきました。本当に大成功です。

もう一つは、水再生センターに人工芝のサッカーグラウンドを三面、水再生センターのご協力によって作りまして、今やサッカー協会、サッカー関係者にとっては、日本の中でも、清瀬の水再生センターの、内山グラウンドが大変に著名になったということで、十文字女子大とも、一緒に勉強しながら、十文字女子大の女子高校が日本一になっておりますので、そういう動きもありまして、本当に清瀬の東京都施設関係者とは、大変色々なことに協力していただいております、改めて御礼申します。ありがとうございます。

細かいことは、副市長に説明させますので。

○清瀬市副市長 では、私のほうから説明をさせていただきます。本当によろしくお願ひいたします。

清瀬市は、昭和6年に府立の清瀬病院が設置されました。今の東京病院なんですけれども。それ以降、15の結核の療養の専門所が開設されまして、全国から患者さんが清瀬に移り住んできました。そういったことで、結核のまち、そして病院のまちとして本日まで発展してきました。

その結果、清瀬市の財政状況には、色々大きな重荷となっております、まずは、市税収入が非常に少ないということ。特に、結核のまちでしたので、企業を誘致することができませんでしたので、法人市民税が極端に少ないという状況。それから一方、歳出の面では、患者さんが療養後、ほとんどの方が清瀬にそのまま住みましたので、やはり収入がないということで、生活保護を受けながら、清瀬市で生活をしている。それから、その後、都営住宅の数も多く建設されたということから、生活保護率は、多摩26市でも一番高い率になってきております。また、その後、病院の看護師さんのお子様を預かる施設として、保育所だとか、学童の整備に追われてきました。こんなことから、そこに勤める保育士さんの採用など、人件費の比率も、やはり高いものに今日もなっております。

また、いつしか福祉のまちというイメージができ上がってきまして、障害者施設整備に当たっても、他市では、近隣住民の反対運動などもあるんですけども、清瀬市はそういったことがほとんどなく来ておりますので、障害者施設等をはじめとした福祉施設も数多く整備がされてきております。そんなことから、歳出に占める、民生費の割合も6割近くということで、非常に財政上重荷になってきております。

こうした市の歴史的な背景、そして、東京都に、こうした特殊要因、それから、市の行革努力も認めていただきまして、総合交付金の配分については特段の配慮をいただきまして、今日までまちづくりを進めてきたということでもあります。

今後の市の行政課題は、まず1つは、耐震性の低い庁舎の建て替え。それから、小中学校の大規模改修。これはまだ7校残っておりまして、当市では、小中学校の耐震化を先に進めてきましたものですから、大規模改修が少し遅れているということです。

また、老朽化した公共施設の改修だとか、それから、保育園の待機児童の解消、それから、ゲリラ豪雨対策。これは、今年の台風で、柳瀬川が水位がかなり上昇したということで、清瀬市では初めて近隣住民に避難勧告を出させていただきましたけれども、雨水排水

対策が喫緊の課題というふうになっております。

また、今、重点事業として取り組んでおりますのは、市民の健康寿命を延ばそうという、こういう施策に取り組んでおまして、行政課題は、今、申しましたように、非常に多岐にわたっております。このような課題に対応していくためにも、総合交付金のさらなる総額の確保をお願いするものでございます。

また、総合交付金に関しましては、今、繰り越し事業に活用できないということで、ぜひ繰り越し事業に活用をお願いしたいと思います。

当市では来年、小学校2校の大規模改造を行う予定をしておりますけれども、国の補助金が28年度の繰り越し事業となったため、繰り越し事業に、その交付金が使えませんので、そうなりますと、清瀬市は一般財源が非常に少ないものですから、どうしても地方債によらざるを得ないという状況で、ぜひ、繰り越し事業にも活用のほう、よろしくお願ひしたいと思います。

また、清瀬の魅力の一つに、緑が多いということが挙げられます。我々は先人が残してくれた雑木林を、できるだけ後世に残そうということで、積極的に公有地化を図っておりますけれども、何分、用地費が非常に高いものですから、ぜひそういったところでも財政支援をお願いするとともに、東京都でも緑確保の総合的な方針がありますので、一定規模以上の雑木林の公有地化については、東京都にも積極的な対応をお願いしたいと思います。

清瀬市の要望は以上でございますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○都知事 では、局長のほうからご回答いたします。

○総務局長 総合交付金の制度や運用の仕方について、かなりお話しございました。市町村総合交付金は、今まで、より使いやすい制度ということで、色々工夫を重ねてまいりましたけれども、やはり庁舎の整備や、それに伴う用地費、解体費、これについては現在入っておりません。また、繰り越し事業というの、やはり当年度に対してそれを算定していくという基本的なルールになっておりますので、繰り越しというの、現在できない状況になっております。

総合交付金、我々も充実に努めておりますけれども、やはり限られた財源ということもございまして、その辺については、また、より使いやすいという視点で色々ご相談させていただきながら検討していきたいというふうに思っております。

○都知事 そのほかの件については承りました。これから検討させていただきます。ありがとうございました。

○行政部長 せっかくの機会ですから、何か市のPRなどを。

○清瀬市長 ちょっと、その前に、上田知事にしっかりお願いしてくださいというふうに。都営12号線の、大江戸線の話です。大江戸線が大泉まで来るのが決まっていますけど、新座馬場を通過して、清瀬通過して、東所沢というのは。

○都知事 それは知事に言ってください。

○清瀬市長 いや、上田知事に言われて、じゃあ、都知事に今度お会いする機会がありますから、一応はお話しておきますと、これが1つです。

2つ目は、とんでもない話ですけど、お金のかかる話では全くございません。昭和6年に、東京府の要請によって、東京府立清瀬病院ができたことで、清瀬は、先ほどの話にありましたように15の病院、5,000を超えるベッド数の病院のまち、東洋一のサナトリウムのまちになっていったわけで。ですので、もしできれば、東京都から、清瀬市に感謝状をいただきたいと。

○中西副知事 結核治療の聖地ということで、非常に大きな保健衛生の分野でご協力いただいて、本当に私どもとしても感謝しております。感謝状をいただきたいという市長さんの気持ちにつきましては、改めて。

○清瀬市長 もう一つ、よろしいですか。

小児病院は、府中のほうに、結局、小児科医の不足なんかでまとまりましたけども、清瀬にあった小児病院は、昭和23年に、子供の結核のために、やっぱり東京府が開設した、結核病院で、だから、本当に子供たちが結核に苦しみながら、と同時に、親元を離れて、お父さん、お母さんと、原点はそこにあったわけですね。その後、結核を制圧した後は、難病の患者が日本全国から、子供が集まってきていたというところでなんですけれども、その原点の、やっぱり子供たちの苦しんだ思いを何か、銅像か何か、今、3万トンの水をためると、福祉施設の、この東京都からの建て替えて、そのときに仮に収容するという2つの施設が決まっておりますけれども、ただ、この場所に、そういう、子供たちが、本当、せつない思いで病と闘ってきたという、尊い、日本で初めての子供のための結核病院だったんですね。その原点を、やっぱり何か、そして、子供たちを鎮魂する、そういう像みたいなものがないかなと思っておるんですけれども。それも考えていただけますか。

○総務局長 清瀬病院の跡地につきましては、御市とも、いずれご相談させていただきながら、特養、給水所、それから、赤松の樹林保全などで活かすよう決まっておりますので、

先ほどのお話も承っておきたいと思います。

○清瀬市長 本当、ありがたかったのは、松を、緑の松だから残してくれないと。ちゃんと東京都のほうで理解していただいて、50本ほど、本来なら施設で切っちゃうところを、あるいは簡単に移植するところを、鎮魂の、子供たちが、だから、お父さん、お母さんって、それを眺めながら、松のほうは子供たちを見守っていた。だから、鎮魂の松だから、ちゃんと移植してくださいとお願いしたら、1本200万かけて、今、順調に移植後も枯れることなく、順調に育っていてくれて、これも大変ありがたいなと思っているところです。

○行政部長 それでは、そろそろよろしいでしょうか。

それでは、知事、最後に一言お願いいたします。

○都知事 お越しいただきまして、誠にありがとうございます。

医療のまちだからこそ、それはむしろレガシーにされて、未来へそれを活用されたいかがでしょうか。ありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。本日は、お忙しい中ありがとうございました。

(了)

『青梅市』

平成29年2月13日（月）

17時16分～17時29分

○行政部長 それでは、冒頭、知事から一言ご挨拶お願いいたします。

○都知事 座ったままで恐縮でございますが、今日は都庁までわざわざお越しいただきまして、ありがとうございます。都政の運営にご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。

直接、青梅の現状と将来の課題、ご要望を市長から伺わせていただきます。

都政の見える化ということで、情報公開の観点から、ネットでこれは報道させていただいておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

例のウメのウイルスで、全部、あれですね。バッサリと、一旦、伐採されて。次、いつ、梅は咲いたか桜はまだかなんていうこともありますけど、ぜひまた、梅の青梅となってよみがえることを期待をいたしておりますし、またこれからも、市のマラソンもございましたし、これからですか、来週ですね。これからも、まちのいろんな魅力をアップしていただければと思っています。

都といたしましても、新年度の予算案におきましても、今回、交付金の充実などもいたしますので、ぜひとも多摩の地域がさらに輝くようにと、このように考えております。

それでは早速、市長から直接お話し伺えればと思います。よろしくをお願いいたします。

○行政部長 それでは、浜中市長、お願いいたします。

○青梅市長 冒頭、ウメ輪紋ウイルスのお話が出ましたので。その前に、先日、青梅マラソンが2月19日に開催、今度は日曜日になります。早速メッセージをいただきまして、感謝申し上げます。東京マラソンが一週間置いて、一週過ぎですね。

そして、ウメ輪紋ウイルスの、今、知事さんから言われましたんで。昨年、11月23日、国からの、一部地域ですけれども、植栽していいという許可を得たものですから、昨年11月23日に、梅の植栽をはじめさせていただきました。そして今年、3月12日は梅まつりということで、今まで梅を3万6000本伐採しましたので、ほとんど梅の木は植わってませんでしたから、「梅まつり」という名前を使えなくてですね、「花まつり」という形で、梅がないところで花まつりということで、今年からはまた、梅まつりということで、吉野梅郷梅まつりという形で、また名前を戻してですね、梅の再生のスタートを

始めようというふうに考えております。

そして、まず、最初に、知事さんのほうに要望事項という形で、青梅の地形は、自然の中にある、すばらしい環境の中であるんですけども、今、我々が考えているのが、お示しいたしたように、青梅駅と東青梅駅というのがあるんですけども、両駅を挟んで北側に、今、点線であるのが、青梅の森といって、これ91ヘクタールあるんです。ここは丘陵地ですね。本当の里山で、広葉樹がほとんどで、これから青梅の良さを、そこでアピールしていこうというようなことで、青梅の森という形で、右側見て、左のところが青梅の森の景観なんですけども。

それと連動して、その丘陵地から、ちょうど青梅駅を挟んで下、5分か10分程度で、多摩川があるんですけどね、多摩川は、そこは釜の淵公園という形で、非常に、河川公園として少し、一部整備しているんですけども、なお一層そこを整備しようという形で、山を、山の自然と川の自然を結びつけるという形で青梅の特徴を出そうというようなことになっているんですけども。

それと同時に、青梅線から南側になってくると、青梅駅から東青梅の間に中心市街地活性化地域という形で、中心市街地活性化のエリアとして、内閣府から承認いただいて、そこを整備しようという形で今やっております。

ちょうど青梅線を挟んで南と北とで、北側は自然をアピールし、南側は再開発していこうという形で、一つの自然と都市とがマッチしたようなまちづくりをしていこうというような流れで計画しているんですけども。

でも、その中で、なかなか今、資金的な問題があって、それを両方一遍に整備ができないから、この青梅の森は東京都に寄附して、河川の公園も、一部青梅市の用地が、点線の丸があるんですけど、用地があるものですから、河川を利用する都民が親しめるような都民の森と、都民の川の遊び場という形で提供して、やっていきたいなというふうに思っているんですけども、そんなような構想があります。そんなようなこともひとつ前向きに検討していただきたいなと思います。以上です。

それと、その青梅の森から東京方面を見ますと、スカイツリーだとか、東京タワーだとか、都庁だとか、一望ができるような、すばらしい丘陵地帯なんですけども、自然も豊富で、いいところなものですから、そういうところを、自然を、都民の自然の活用ゾーンとして活用してもらえないかなというのが一つの希望であります。

○行政部長 よろしいですか。



では、知事お願いいたします。

○都知事 青梅から梅を取っちゃうとなかなかさびしいものがあるだろうなどはお察しいたしますが、早く梅の里が再生されること、私どものほうも大変期待をしておりますし、また連携させて、バックアップをさせていただきたいと思います。

それから、今、青梅の森の都への御寄附のお話がありましたけれども、都立の公園ということにいたしますと、また色々と、都市計画の整理などもございますので、これについてはしっかり整理をしなければなりませんので、引き続き担当のほうと、話を伺わせていただくという方向で進めさせていただきます。承らせていただきます。

それから、幾つかあと、事前のご要望も伺っていたんでありますけれども、それぞれの担当の局等でご要望を、どうすればできるかなど、対応させていただきますので、それぞれのほうでお話を伺うことになるかと思えます。

○青梅市長 ちょっと、つけ加えていかなければいけなかったんですけども、1つは、青梅の梅の里の再生というのが、1つの問題でありました。

もう一つは、今、進めていただいているのが、青梅インター、圏央道青梅インター周辺の物流センターの開発の問題がございまして、それも区画整理組合をつくって、今、進めているところでございます。それも早期に何とか形になるように努力させていただいているんですけど、早期にこれが実現できるように頑張っておりますので、お力添えをいただきたいということと。

それから、もう一つは、今この西多摩管内では、病院が、非常に充実した病院が、青梅の市立総合病院というのがあるんですけども、そこが一番の中核病院として急性期の高度医療を担うような総合病院として運営しているんですけども。今年度、29年度、新年度から基本計画に入りまして、建て替え計画をつくりました。それで、その金額は275億なんですよね。非常に青梅の財政からいったら、ちょっとハードルが高いんですけども、やっぱりこれからの高齢化だとか少子化を考えると、医療の充実というのも考えなきゃいけないものですから、ぜひこれも実現したいということで、いろんな角度で東京都からもご支援いただきたいなというふうに思っております。

それと、もう一つは、今、東京オリンピック・パラリンピックが、東京都区内の中で始めようとしておりますけども、それに伴って施設整備が徐々に始まってきました。それと同時に、東京都自体の、味の素スタジアムとか、多摩地域においても、多摩地域の東、東部側に、非常にオリンピック関係の施設等が充実されて、23区内ももちろんそうなので

すけども。ますます、西部地域におけるスポーツ施設が、だんだん格差が生じてくるような状況が見受けられるものですから、ぜひともやっぱりオリンピックに向けて、我々の地域は西多摩地域という、ある程度エリアがあるものですから、その広域的な観点から、明星大学の跡地をスポーツ施設に活用していただければありがたいなというふうな思いを持っております。

以上です。

○行政部長 ありがとうございます。

○都知事 追加としての、圏央道青梅インターチェンジの物流拠点の整備に関してでありますけれども、市街化編入、それから、農業振興地域、指定の解除をしなければならないというのは、国が関係してきます。その観点から、引き続き関係いたします局のほうと連携して取り組ませていただきます。

それから、病院でございますが、地域医療の確保と向上が図られますようにという思いでございます。そういう観点から、適切な対応をさせていただこうと考えております。

それから、スポーツでありますけれども、予算額を、29年度予算でスポーツ施設の整備費の補助、この事業の予算額を増額をいたしておりますので、これをよく活用していただければと存じます。

それから、都立誠明学園（敷地の活用）ですか、こちらについても、財政状況などから、現段階では難しいんですけれども、多摩の文化振興が重要という観点から、今後、多彩な文化プログラム展開されるように、連携して取り組ませていただきたい、このように考えております。

○行政部長 まだ若干時間ございますが、何かつけ加えられることがあればお願いします。

○青梅市長 お答えいただきましてありがとうございます。あと、これから、青梅の全体を見た中で、やっぱり、青梅の森と河川公園というのが、これから青梅市政の将来を左右するのかなと思っておりますので、それが一番、青梅のカラーを出すことによって、これが都民の広場になるのかなと思っておりますので、これを重要な位置づけとして、これから私も進めていきたいなと思っております。

○行政部長 よろしゅうございますか。

では、知事、最後に一言お願いいたします。

○都知事 はい。直接おいでいただきましてありがとうございます。青梅の重要な観光資源の梅の里が、早く再生、復興されますこと、ぜひこれからも、まちの発展につながるよ

うに応援をしていきたいと思っております。

地域の実情を踏まえた効果的な支援ができますように、幾つかのご要望をいただきました。それぞれ担当局との連携のもとで、お進めいただければと思います。

ご苦労さまでございました。

○行政部長 それでは以上をもって終了させていただきます。お忙しいところありがとうございました。

(了)

## 『八王子市』

平成29年2月13日（月）

17時30分～17時46分

○行政部長 それでは、冒頭、知事から一言ご挨拶お願いいたします。

○都知事 本日、お忙しいところ、都庁まで越しいただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろより都政運営にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

今日は、市長さんから直接、それぞれ抱えておられる課題、そして、将来に向けての期待、そして、ご要望を直接お伺いしております。

そしてまた、このやりとりにつきましても、都政の見える化の一環といたしまして、インターネットでの情報公開をしておりますので、ご了承いただきたいと存じます。

八王子は市制施行100周年を迎えられるということで、おめでとうございます。高尾山に代表される豊かな自然や、今回もオリンピック・パラリンピックのスカーフというか、風呂敷なんですけど、八王子の絹製品を使わせていただきましたし、フラッグツアーで、全国で振りまっております旗も、八王子の絹を使わせていただきまして、すばらしい宝物をこれからも伸ばして行っていただきたい、そういう思いでいっぱいでございます。

ということで、今日は直接ご要望を伺わせていただきますので、どうぞ時間のほうをご活用いただければと思います。

○行政部長 それでは、石森市長、発言をお願いいたします。

○八王子市長 八王子市長の石森でございます。今日は、このような機会を設けていただきまして、大変ありがとうございます。

先日、野田特別秘書が、私のほうにお見えになりまして、八王子の課題、あるいは要望等についてお話をさせていただきました。まずは三多摩として、平成29年度、そしてまた28年度の補正予算で、総合交付金を500億に上げていただいた。これは大変、我々にとりましても、うれしい限りでございます。

特に三多摩の自治体にとりましても、いずれも、その財源という問題を常に抱えておりますが、そういう意味では交付金というのは、非常に貴重な財源でもございますし、命綱とも言えると思っております。まず、引き続き、この総合交付金の拡充をお願いできればと、そういうふうにも思っております。

ただ、三多摩格差という言葉がございますけれども、三多摩にも格差が実は存在いたし

ます。ごらんのように、交付団体、不交付団体ございますが、我々は交付団体の中に入っております。お手元にちょっと資料はつけさせていただきましたけれども、そういう意味では、この算定基準が、できれば財政状況が厳しい自治体に対しては、できるだけ手厚い交付金を配分していただく。そのことによって、我々は、できるだけ施策展開が可能になってくるという面がございますので、今現在、その算定基準の配分が、財政状況割が多分35%くらいだと思うんですけども、少し上げていただくと、非常に厳しい自治体もございますので、そういう点では、そういう方向にさせていただくとありがたいかなと、そういうふうに思っております。

2つ目が、我々、色々な施策展開をしているところでありますけれども、ぜひ、東京都が独自の施策を行うときには、我々とできるだけ意思疎通、調整を図っていただきたい、そういうふうに願っているんですね。先日も、保育所の固定資産税の免除という課題がございました。特に、八王子は中核市でございますので、そういう点では、去年の9月でしたかね、待機児童解消に向けての特別な施策が展開されましたが、我々は中核市ということで、財源の支援というのが、非常に、ないといいますか、その辺で漏れてしまうというのがございますので、ぜひそういう意味では、事前のさまざまな調整をしていただいて、東京都全体で同じような施策展開ができるように、ぜひお願いしたいというふうに思います。

個別の案件でございますが、手元に地図等も含めてお願いをさせていただきましたけれども、八王子では、ちょうど中心部にJR八王子駅と京王八王子駅というのがあるんですが、その間の再開発を今、手がけているんですね。その中では、東京都の産業交流拠点、この整備が、今、進められています。今現在、実施設計に入って、多分完成が平成34年ごろになろうかと思っておりますけれども、色々私どもと調整をしていただいて、中身については着実に進んでいただいていると、そういうふうに思っております。

やはり、箱物ができる限りは、我々もしっかりその中に、いろんな形で活用できればというふうに思っております。MICEを今、推進しているんですね。新年度に入りますと、商工会議所と連携をしながら新たな組織を立ち上げて、いずれにしても平成34年に産業交流拠点という大きな形のものででき上がりますので、それに向けて、できるだけMICEを推進していこうということで、今進めています。ですから、その辺のまた支援も、ぜひ東京都側からもお願いしたいと、そういうふうに思っています。

それから、西のほうへ行きますと、昨年、圏央道の西インターがフル化になりました。

昨年の12月なんですけれども。これは私どもの悲願であったわけですが、それに隣接をして、川口の物流拠点整備、今、進めているんですね。これはまだまだ日にちがかかるかと思っておりますけれども。その圏央道西インターと、中央道八王子インターを結ぶ、北西部幹線道路というのがあるんです。これは以前は市施行で行うということで進めていたんですけれども、第4次の事業計画、都市計画の事業計画の中では、東京都施行ということで格上げがされました。そういう意味では、物流拠点の成功の鍵というのは、やはり、そういった道路のインフラ整備というのは非常に重要になってまいりますので、できるだけ予算をつけていただいて、北西部幹線道路の進捗も図っていただければと、そういうふうに思っています。

それから、先ほど知事からお話しございましたように、今年は100周年でございます。昨年から色々な事業をして、できるだけ市民の皆さんの気運を高めながら現在に至っているんですね。昨年の夏には、八王子まつりという大きな、最大な八王子のイベントがございますが、その中で、民踊流しでギネスに、世界記録に挑戦しようということで、実際にギネスに認定をされました。

10月には、戦国時代の北条家のゆかりということで、小田原市と寄居町と姉妹都市の盟約を結んだんですね。これまで観光面でいろんな交流はございましたけれども、これからいろんな分野で交流を図りながら、3都市の発展を目指していこうと、そんなことも行いました。

今年は、5月にはボルダリングのワールドカップ、これは2020年東京オリンピック・パラリンピックの追加競技に決定をして、初めて国内で開催されるということで、八王子で開催をされます。

そんなことを行っているところでありますけれども、今年のメインの事業は、全国都市緑化はちおうじフェア。これは9月16日から、1カ月間にかけて行います。9月16日が開会式でございます。あわせて、10月の1日が、この100周年の記念式典を行いますので、ぜひその2つには、知事も八王子のほうにお越しをいただいて、ご挨拶を、ご祝辞をいただければと、そのように願っております。

私からは以上でございます。大変ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございました。

それでは、知事からご発言願います。

○都知事 100周年については、日程等々調整をさせていただいて、物理的に可能かど

うか、まず調べさせていただきます。いずれにせよ、おめでとうございます。

それから、オール東京で取り組む緊急対策として、これからもコミュニケーションをとりながら進めてまいりたいと存じます。

例の固定資産税10分の10でございますが、どれくらい税に影響が出るかは、たくさん物件が出てくればマイナスの、税がへこむということにもなりますけれど、それはむしろうれしい悲鳴につながるようにしていきたいと思っておりますので、そういった点でもご協力をいただければと、前もってお知らせするように心がけてまいります。

それから、川口の物流拠点の整備について、地図でも拝見させていただきました。土地利用計画などの調整も必要でございますし、市による整備計画の策定が必要かと思えます。今もご支援をしているかと思えますが、今後も、多摩地域での物流拠点の整備ということについては、都としても取り組ませていただきます。

それから、これは局長のほうからお答えいただいたほうがいいのか。MICEの件ですね。MICEについては、支援の対象となる地域ですけれども、公募の上で、審査、選定という運びになるかと思えますが、29年度予算の中にも、MICE対策ということで、少々つけてございまして、MICE開催のポテンシャルを有する地域への支援は進めていきたいと、このように考えております。その取り組みに臨む、大変積極的な姿勢ということについては歓迎をさせていただきたいと存じます。

それから、とても具体的な、北西部の幹線道路についても今お話があったかと思うんですけども、これについては、物流拠点とのアクセス機能強化ということから、事業化に向けて取り組んでまいるといふ、このような都の姿勢でございます。

ほか、局長のほうからお答えいたします。

○総務局長 市町村総合交付金の制度的な問題でございます。申すまでもございませんが、市町村総合交付金は、市町村の財源補完としての役割を十分に果たしていくことが重要と認識しております。お話の財政状況はもとより、各地域の課題の実情を的確に踏まえた効果的な支援ができるよう、今後とも、使い勝手のいい総合交付金を目指しまして、適時見直しを検討してまいりたいと考えております。

○行政部長 一旦以上でございますが、市長、何かつけ加えることございましたら。

○八王子市長 ええ、かなり東京都と関連する事業が多いものですから、ぜひ我々も、毎月毎月、東京都に色々要望活動をさせているような状況がございますので、ぜひ、一歩でも前に進めていただけるような取り組みを、ぜひよろしくお願ひしたいというふうに思ひ

ます。

○行政部長 まだ時間ちょっとございますが、何かアピールされたいこととか、ございましたら。

○都知事 八王子も、あれですね。どんどん発展されて、この間も参りましたけれど、オリンパスホールというところ、とても立派なホールで、非常に構えもいいし、これからますます、八王子というのは、まさしく中核都市として存在を発揮されることを期待いたしております。

○八王子市長 では1つ、以前、当時、八王子は、オリンピックの関係で、自転車競技、トラック競技とロードレースをやったんです。当時、まだ、2020年のオリンピックの際の自転車競技の場所が決まってないときに、組織委員会とか東京都に対して、ぜひ八王子でやってほしいというような、そんな要望を出したんですね。まあ、マウンテンバイクとかBMX、そちらになりますけれども。結局それは、八王子でできないことになりましたが、ただ、1つだけ、ロードレースが、皇居を出発して、皇居がゴールになっていると思うんですが、その間がまだ多分確定してないと思うんですね。ですから、でき得れば、甲州街道を使って、八王子にもそういった、過去に自転車競技をやったというレガシーがあるものですから、少し八王子のほうとか、少し、国体でもやったんですけれどもね、ロードレースを。そのロードレースを何とか、東京都内で走らせていただけるような、そんな取り組みをぜひ、お願いできればと、そういうように思っています。

○都知事 まだ、ロードレースの日程も決まっていなかったんじゃないかな。日程なども、交通に大きく影響するものですから、そのあたりはまだまだ確定していないという状況です。そう聞いておりますけれども、そういったご要望については、お伝えするようにいたします。

そうですね、八王子と、自転車も、ママチャリを含めて大変活用されているかと思えますけれども、ロードレースを含めて、若い人からお年寄りまで、自転車の活用ということを、ぜひ、八王子でもこれからも推進していただければ、健康増進という観点からもよろしいかと思えます。

○行政部長 それでは、よろしゅうございますか。

それでは、最後に知事、一言ご挨拶お願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。わざわざお出まじいただきまして、市長自らのご要望でございました。これからも、多岐にわたるご要望も別途受けておりますので、詰めさ



せていただき、そして、100周年にふさわしいような都市となることを期待をいたしております。

今日はわざわざありがとうございました。

○行政部長 それでは、以上をもちまして終了させていただきます。ありがとうございました。

(了)